

2022年3月期 第2四半期決算説明資料



2021年11月30日
ニチレキ株式会社

「道」創りを通して社会に貢献する
「道」創りのリーディングカンパニー

「種を播け」



「種を播け」

よい種を播いて歩こう
これが我が社のモットーです
たとえ、どんな旱魃がきても
枯れないような強い種をまき
汗を流して肥料をやろう
必ず立派な実がみのる
たとえ、自分がとらなくても
私はこう思っています
種まきをしないで
肥料をやらないで
誰も果実ばかりねらっているのは
本当の繁栄はこない
私はそう思います

池田 英一（当社創業者）

企業理念



ニチレキグループ企業理念

基本理念(種播き精神)

『種を播き、水をやり、花を咲かせて実らせる』

たゆみない努力の積み重ねによって絶えず新しい仕事を創造していきます。

経営理念

ニチレキグループは、「道」創りを通して社会に貢献するため、

- ①優れた機能とコストを満足する道路舗装材料ならびに工法の提供
- ②国民の共有資産である「道」をいつも見守る高度なコンサルティング
- ③顧客から信頼される施工技術

これらを完全に一体化し、株主をはじめ幅広い顧客の皆様から信頼される「道」創りになくはない収益性に優れた企業グループであり続けるとともに、社員一人ひとりが能力を発揮でき、働きがいのあるグループであることを経営理念とします。

目次

I . 会社概要

II . 2022年3月期 第2四半期決算概要

III . 2022年3月期 通期業績予想

参考：第10次中期経営計画

I . 会社概要

会社概要



名称	ニチレキ株式会社 NICHIREKI CO.,LTD.
本社所在地	東京都千代田区九段北四丁目3番29号
創業	1943年10月（設立 1949年9月）
資本金	2,919百万円
代表者	代表取締役社長 小幡 学
従業員数	924名（連結、2021年3月31日現在）
事業内容	・ アスファルト応用加工製品の製造・販売 ・ 建築・土木用資材の製造加工・販売 ・ 道路舗装工事・防水工事・上下水道工事、及びその他の土木工事の請負、これに関する調査・設計・監理 他

グループ沿革



1943年	池田英一がアスファルトを用いた建築防水工事を行う日本瀝青化学工業所を興す
1946年	舗装工事に着手
1949年	会社設立
1950年	東京都荒川区に東京工場・研究室を建設、アスファルト乳剤の製造を開始
1954年	分割合併等により日瀝化学工業株式会社に社名変更
1961年	国産初のカチオン系アスファルト乳剤「カチオゾール」が棚橋発明賞を受賞
1968年	東京都千代田区九段に本社ビル新築（現在に至る）
1974年	東証と大証の両市場第一部銘柄として上場
1977年	栃木県の小山工場内に技術研究所を開設
1994年	ニチレキ株式会社に社名変更
2002年	中国・北京市に特殊舗装材料の製造・販売を行う日中合併会社 北京路新大成景観舗装有限公司を設立
2007年	初のM&Aを実施、大分県大分市の朝日工業（株）を完全子会社化
2010年	中国・上海市に子会社 日瀝（上海）商貿有限公司を設立
2014年	連結子会社を完全子会社化
2017年～2019年	M&Aを実施、ラインファルト工業（株）、伸和化工（株）、ヒートロック工業（株）を完全子会社化
2020年	つくばみらい市に環境配慮型の生産・物流基地（つくばビッグシップ）を建設するための大規模な土地を取得

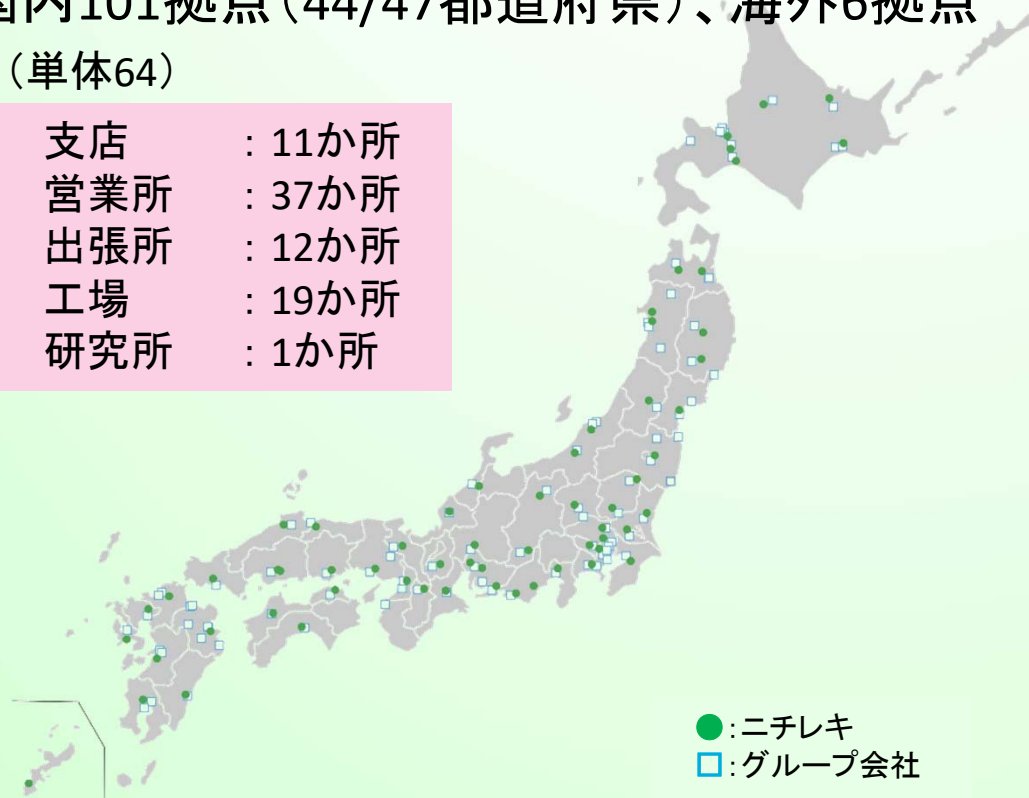
事業所・グループ会社 (2021年9月30日現在)



◆事業所

国内101拠点(44/47都道府県)、海外6拠点
(単体64)

支店	: 11か所
営業所	: 37か所
出張所	: 12か所
工場	: 19か所
研究所	: 1か所



●: ニチレキ
□: グループ会社

◆グループ会社(連結子会社)

北海道ニチレキ工事株式会社
東北ニチレキ工事株式会社
日瀝道路株式会社
日レキ特殊工事株式会社
中部ニチレキ工事株式会社
近畿ニチレキ工事株式会社
中国ニチレキ工事株式会社
四国ニチレキ工事株式会社
朝日工業株式会社
九州ニチレキ工事株式会社
ラインファルト工業株式会社
ヒートロック工業株式会社
など35社

事業概要



主として道路舗装に関する製品、技術、工事等を幅広く提供する事業を展開

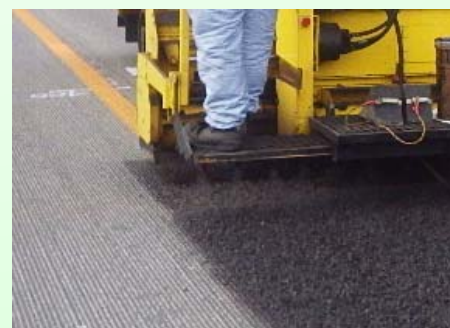
●アスファルト応用加工製品事業

アスファルト乳剤、改質アスファルト、橋梁床版防水材料、路面補修材、クラック補修材、景観舗装材料、工業用製品などのアスファルト応用加工製品の製造・販売、および建築・土木用資材の製造加工・販売

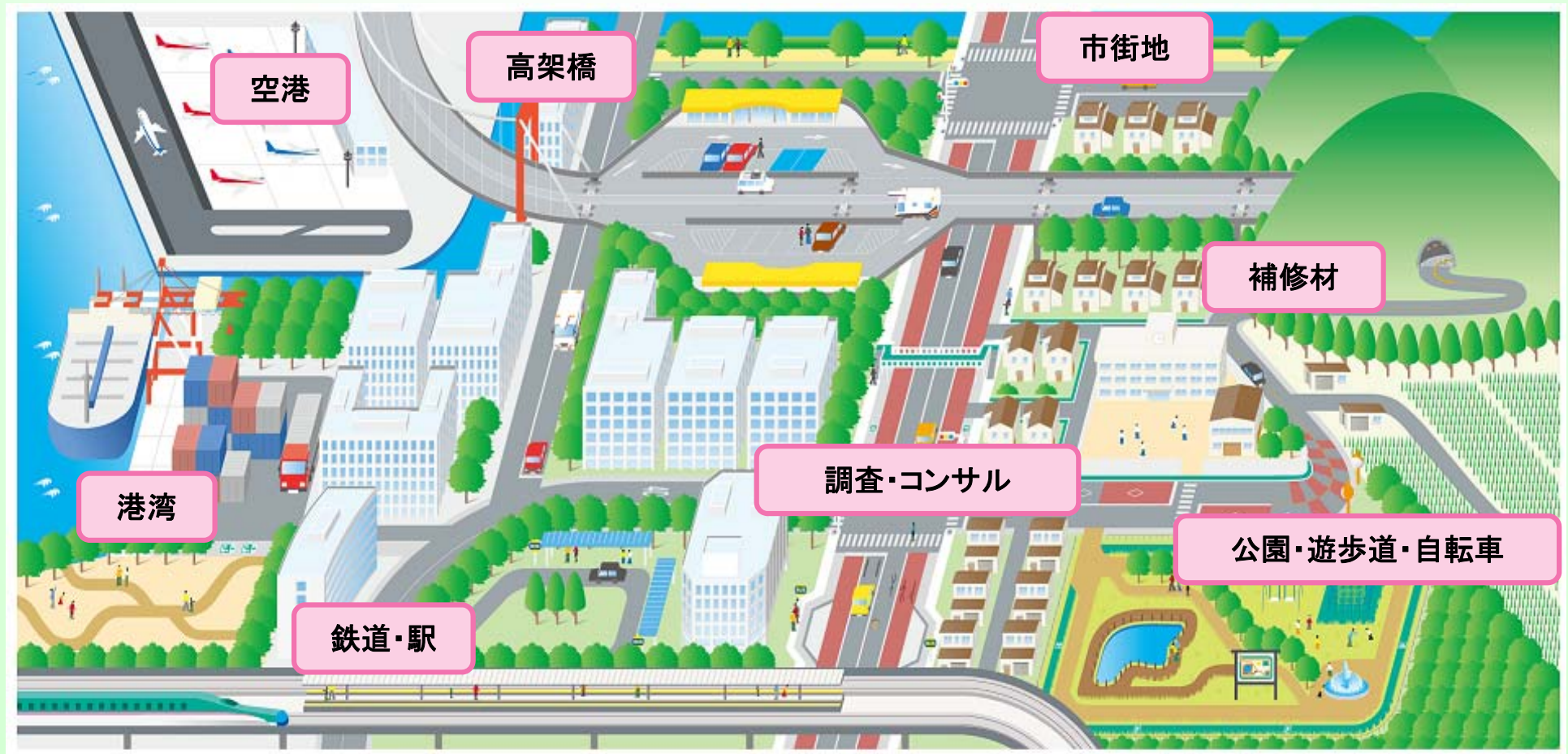


●道路舗装事業

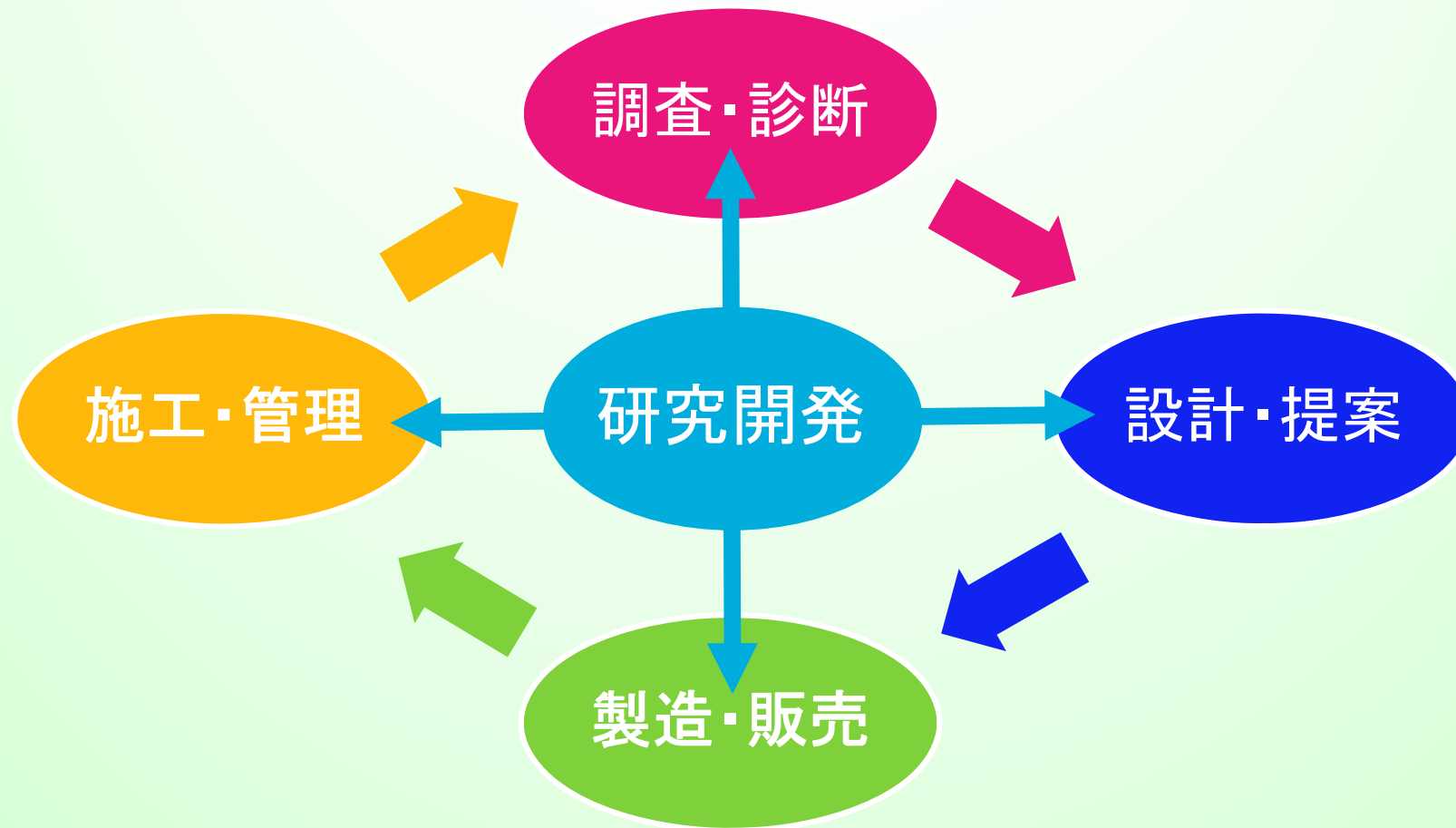
道路舗装工事、橋梁床版防水工事、上下水道工事ならびにその他の土木工事の請負、およびこれらに関する調査・診断、設計、監理



事業領域



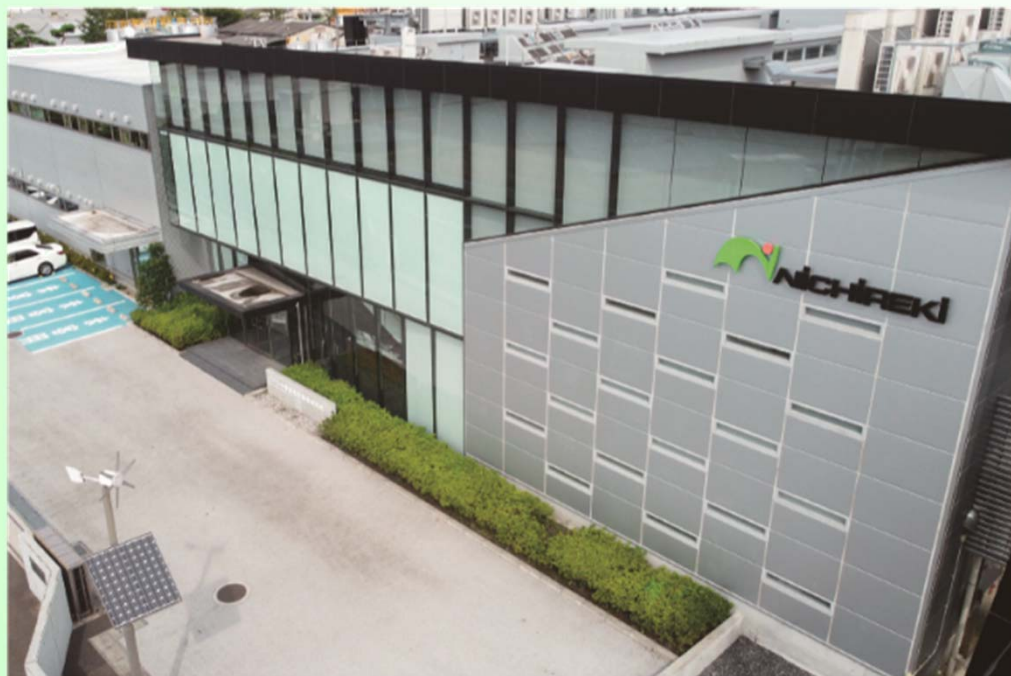
ビジネスモデルにおける強み



研究開発の強み



- ◆ ニチレキ社員の約1割(約40名)が所属し、営業利益(連結)の約1割を研究開発に投入
- ◆ 舗装における性能評価試験機類を配備、道路の長寿命化、大規模更新などの社会インフラのメンテナンス時代に対応した環境配慮型の製品・工法の研究開発を推進

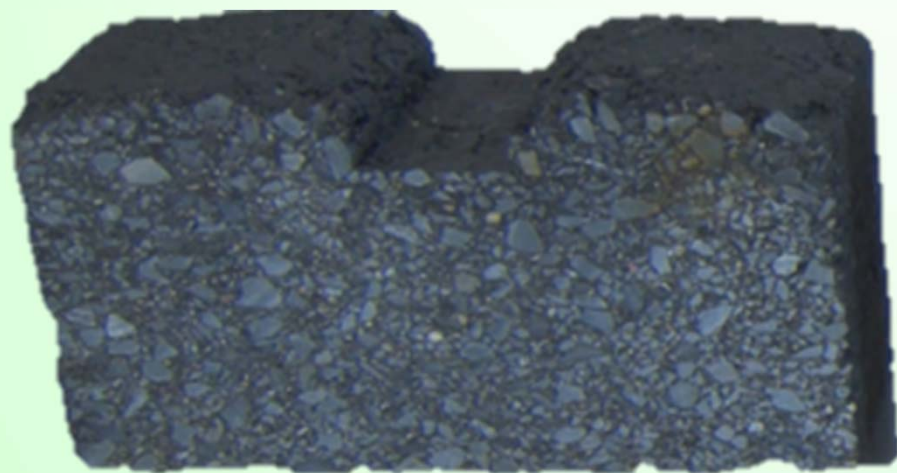


研究開発費

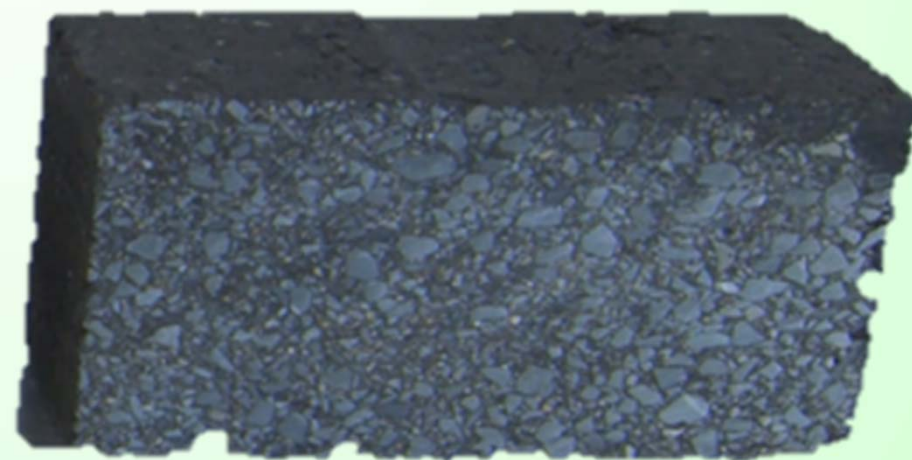
(百万円)



研究開発の事例（コンテナファルトスーパー①）



ストレートアスファルト

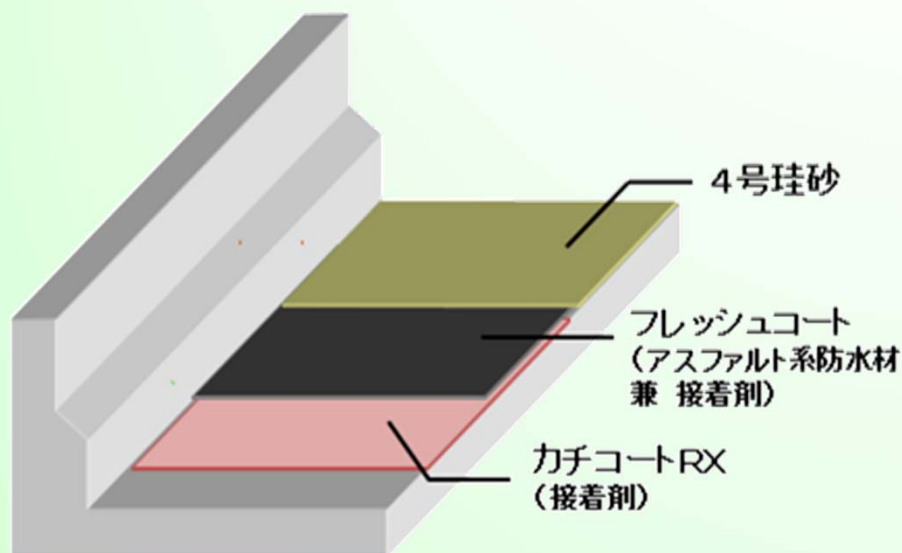


コンテナファルトスーパー

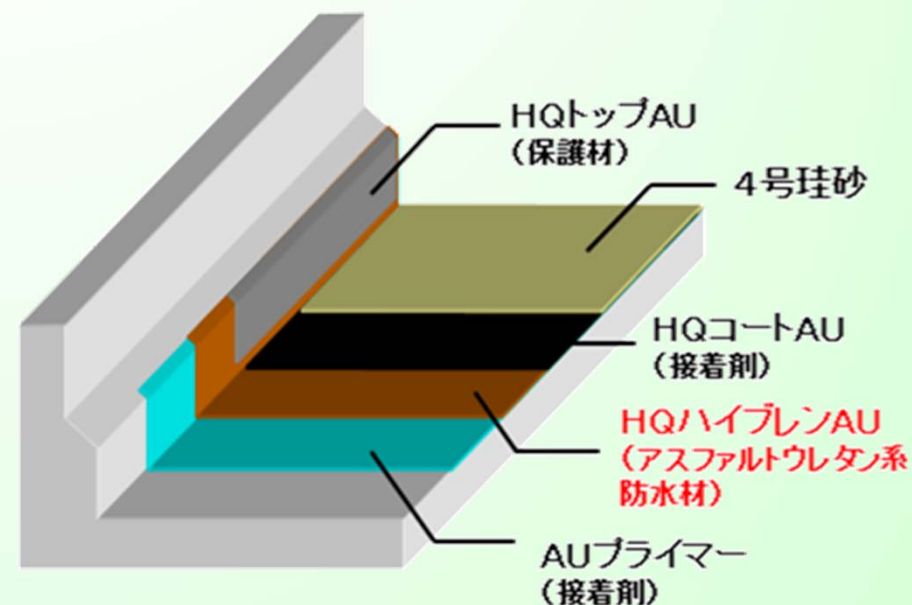
研究開発の事例(コンテナファルトスーパー②)



研究開発の事例(HQハイブレンAU工法)



アスファルト加熱型防水材料

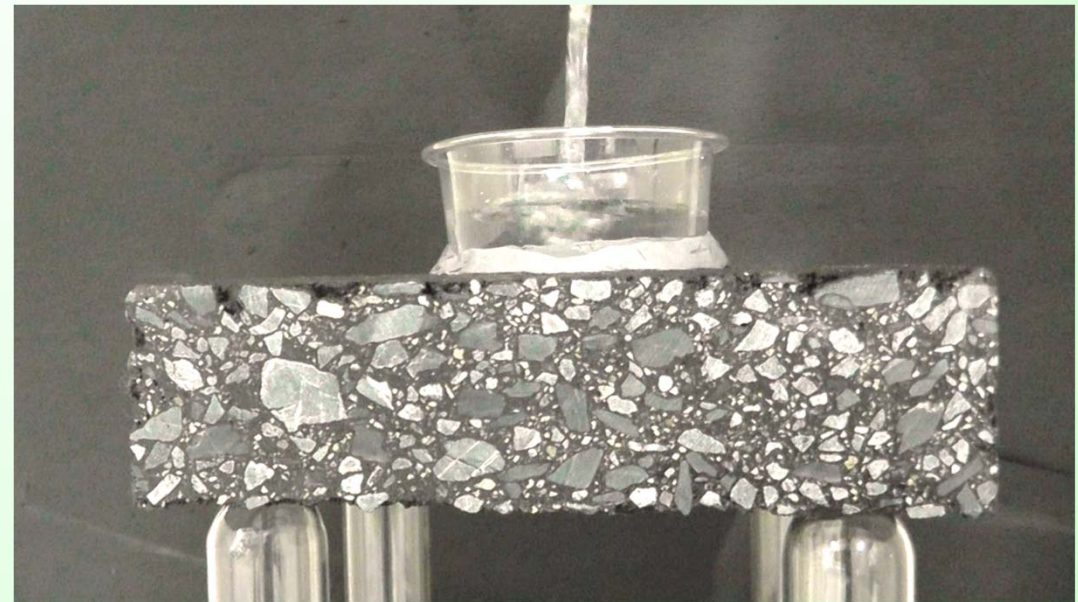


アスファルトウレタン型防水材料
(30年耐用)

研究開発の事例(排水性舗装①)

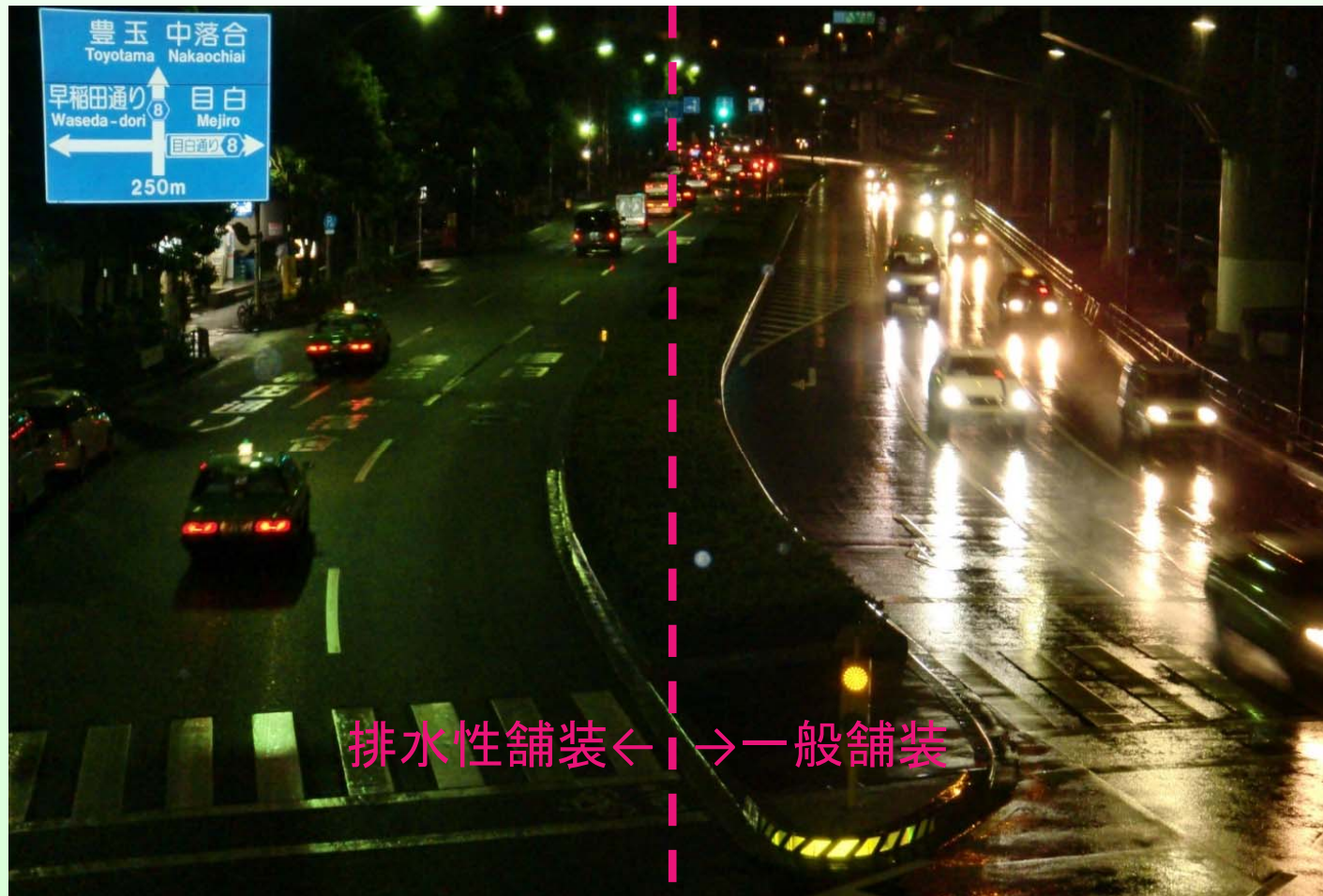


排水性舗装



一般舗装

研究開発の事例(排水性舗装②)



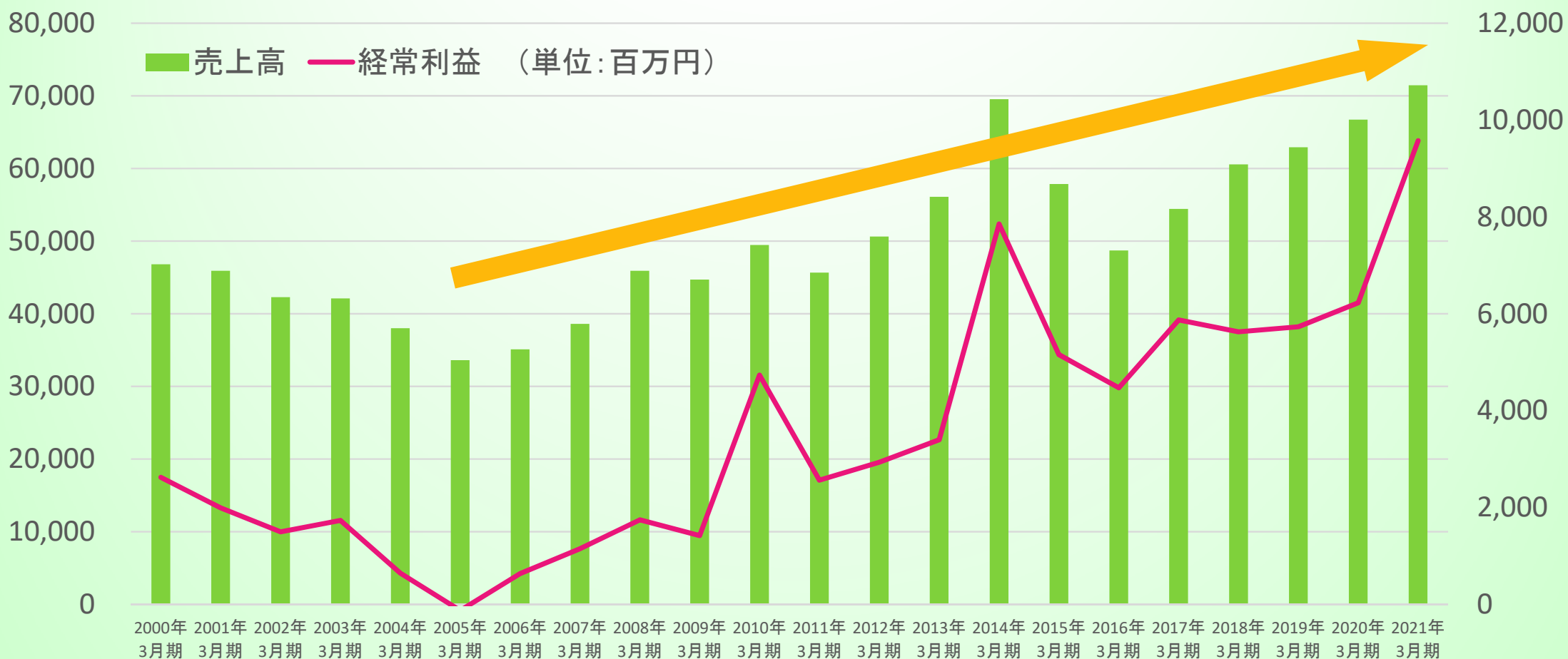
研究開発の事例(アスウッド舗装)



研究開発の事例(遮熱性舗装)



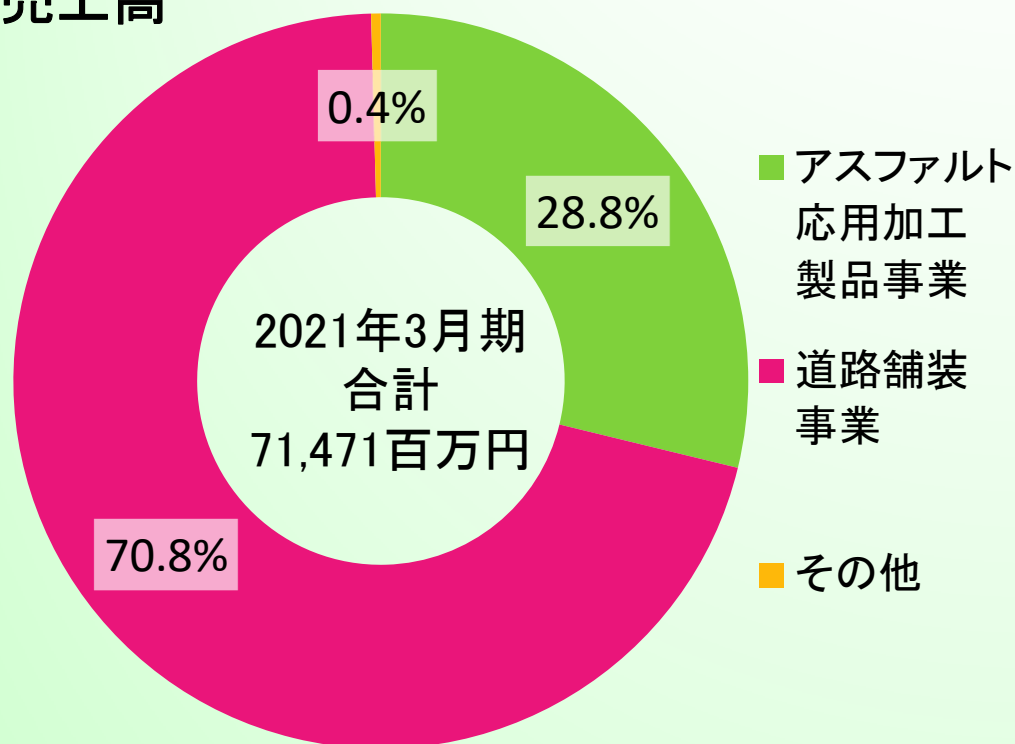
売上高と経常利益の推移



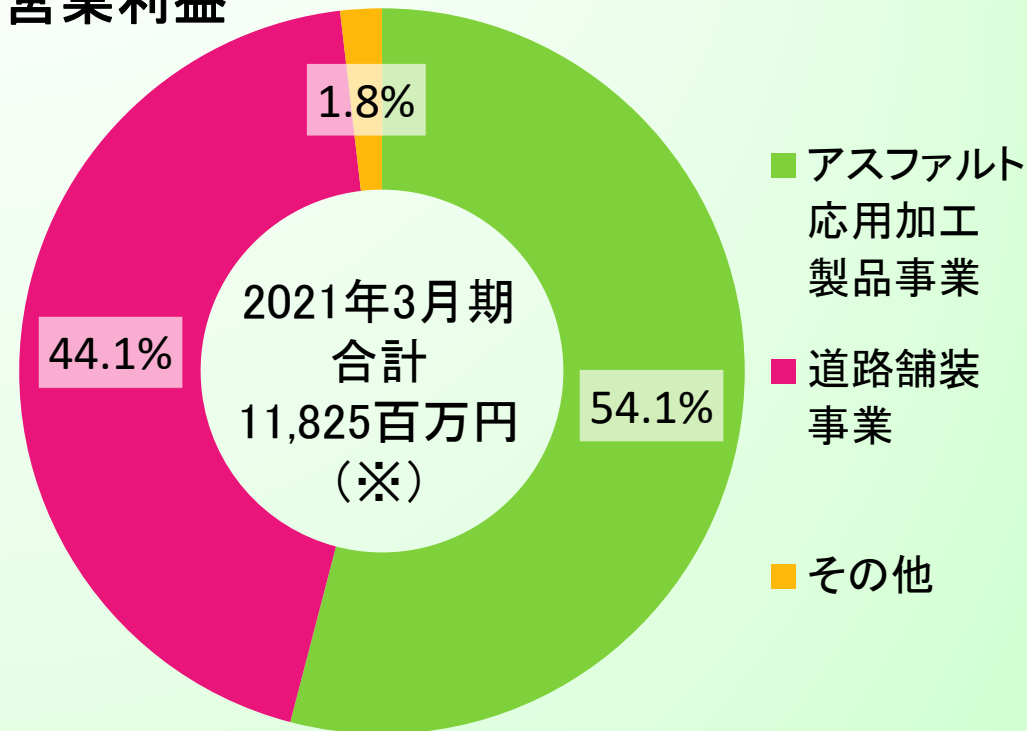
セグメント別業績比率(2021年3月期)



売上高



営業利益



※: セグメント間取引消去および全社費用の調整額
2,684百万円を控除する前の金額

Ⅱ．2022年3月期 第2四半期決算概要

2022年3月期第2四半期の事業環境



日本経済の概況

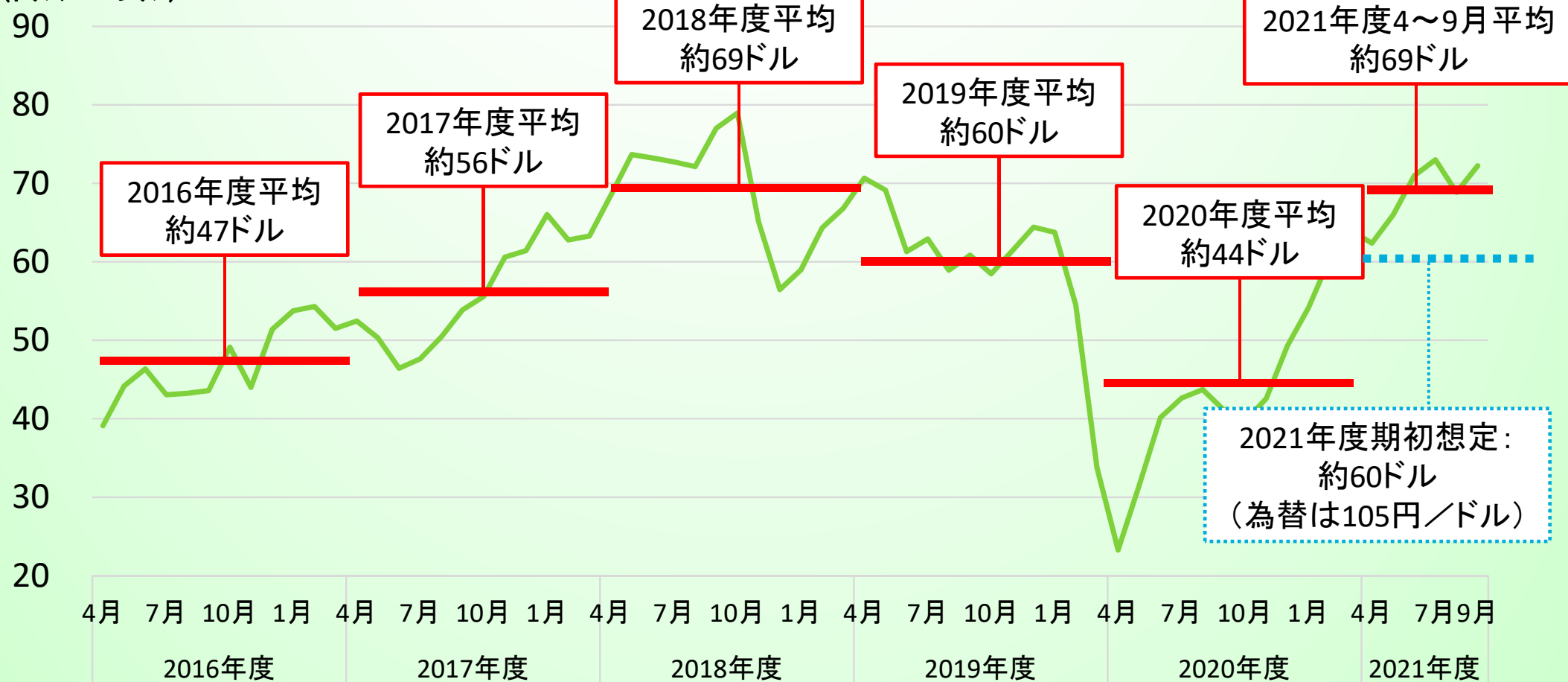
- ◆新型コロナウイルス感染症により、依然として厳しい状況
- ◆ワクチン接種を促進する中で、各種政策の効果などもあって景気の持ち直しの動きも見られた

当社グループを取り巻く事業環境

- ◆防災・減災、国土強靱化対策など建設需要の高まり等、公共投資は高水準で底堅く推移
- ◆原油価格高騰等の業績下押し要因もあった

参考:ドバイ原油価格

(ドル／バレル)



第2四半期の主な取り組み



- ◆ 防災・減災、国土強靱化対策を始めとする工事の積極的受注と消化
- ◆ 「長寿命・高性能化」や「環境負荷低減」等、高付加価値製品の販売拡大
- ◆ 原材料価格上昇への対応

第2四半期決算概要

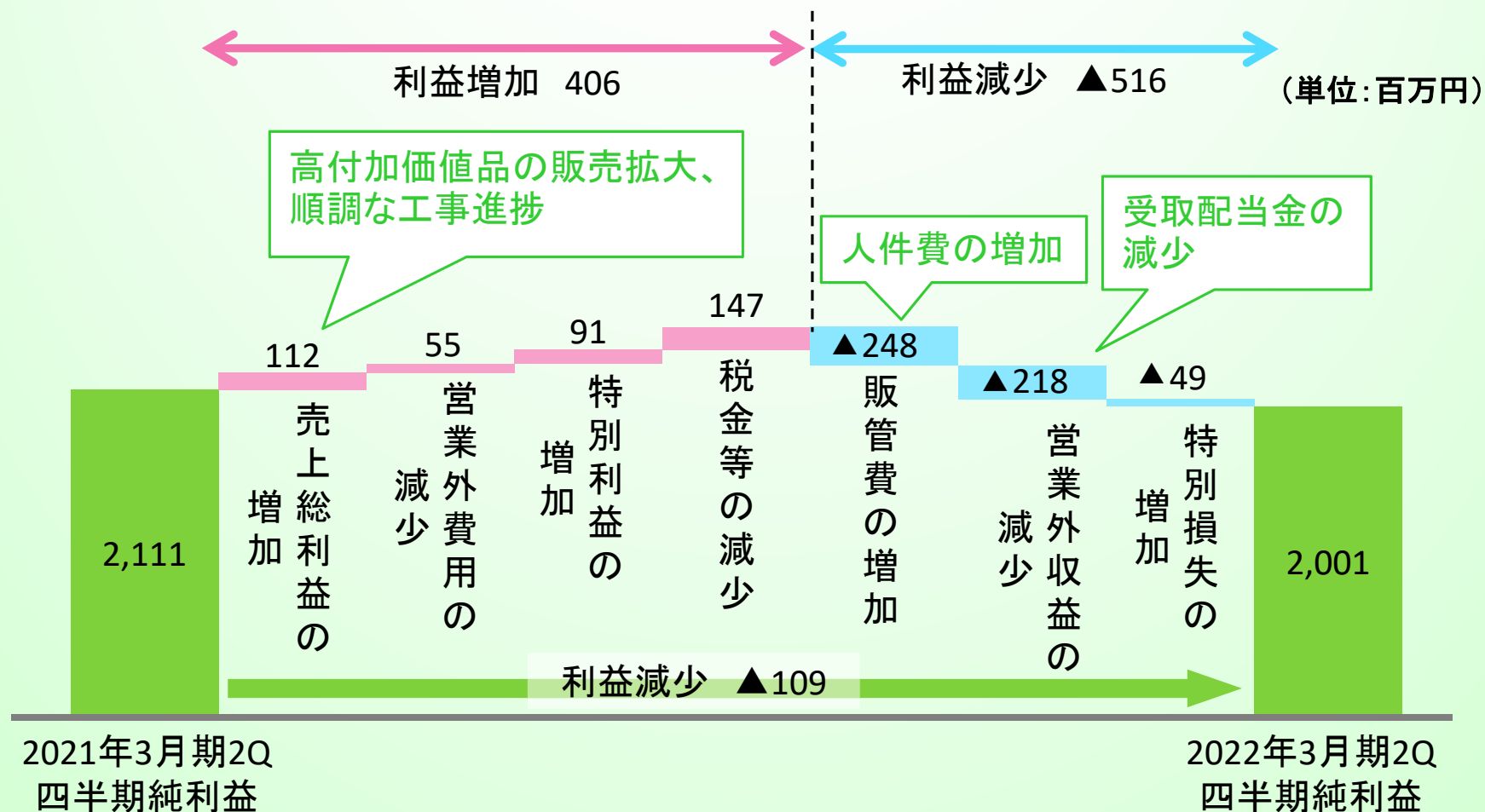


(単位:百万円)

	2021年3月期 2Q	2022年3月期 2Q期初予想	2022年3月期 2Q実績	対前期 増減	対前期 増減率	対予想 増減	対予想 増減率
売上高	28,555	27,000	32,416	-(※)	-(※)	5,416	20.1%
売上総利益	7,351	—	7,464	112	1.5%	—	—
販売費及び一般管理費	4,435	—	4,684	248	5.6%	—	—
営業利益	2,915	1,300	2,779	▲ 135	▲ 4.6%	1,479	113.8%
経常利益	3,246	1,400	2,947	▲ 298	▲ 9.2%	1,547	110.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,111	900	2,002	▲ 109	▲ 5.2%	1,102	122.5%

※: 当期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用のため、
売上高の対前期増減および増減率は不記載

四半期純利益の増減要因分析



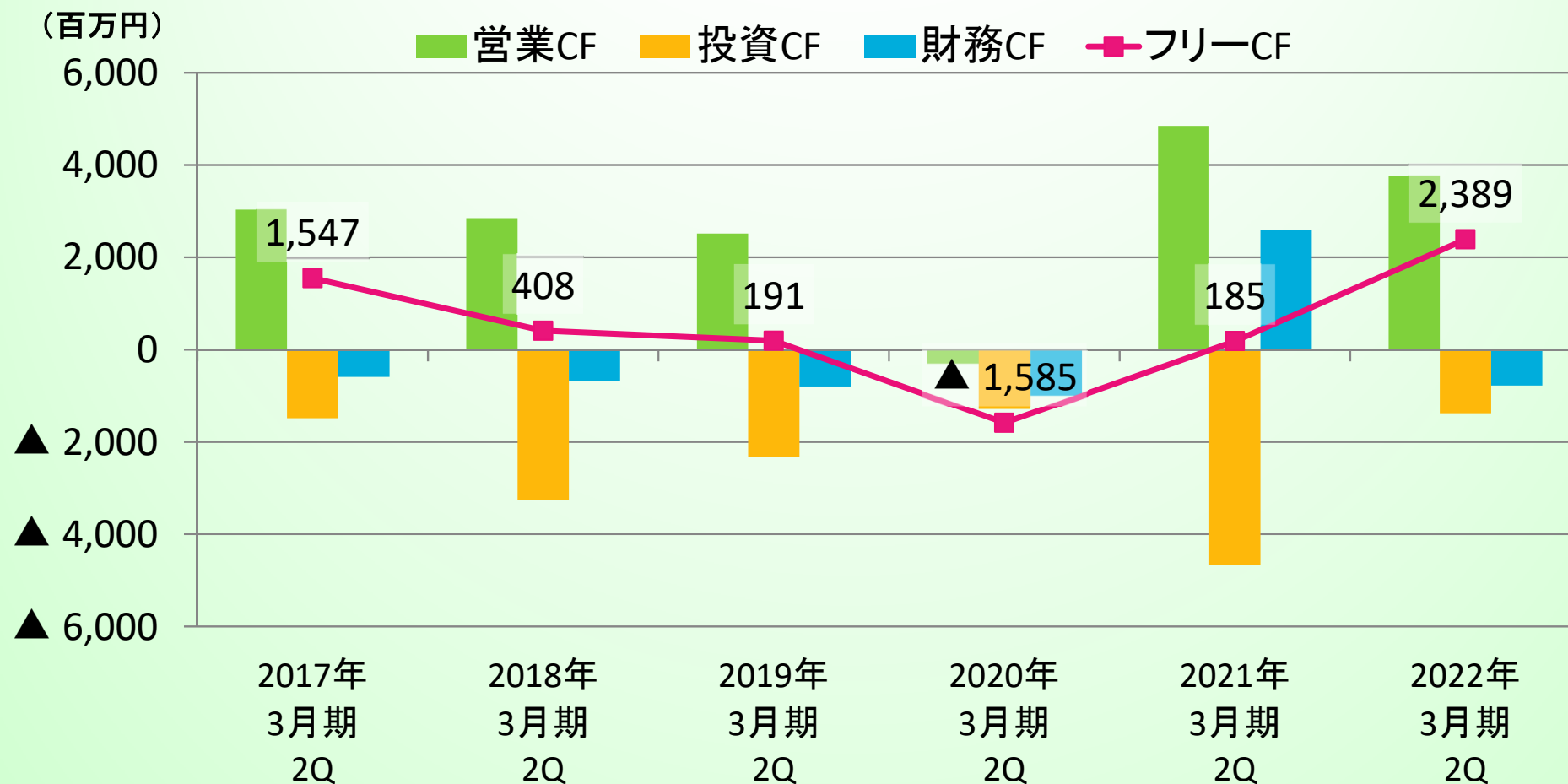
貸借対照表 (2021年9月30日)



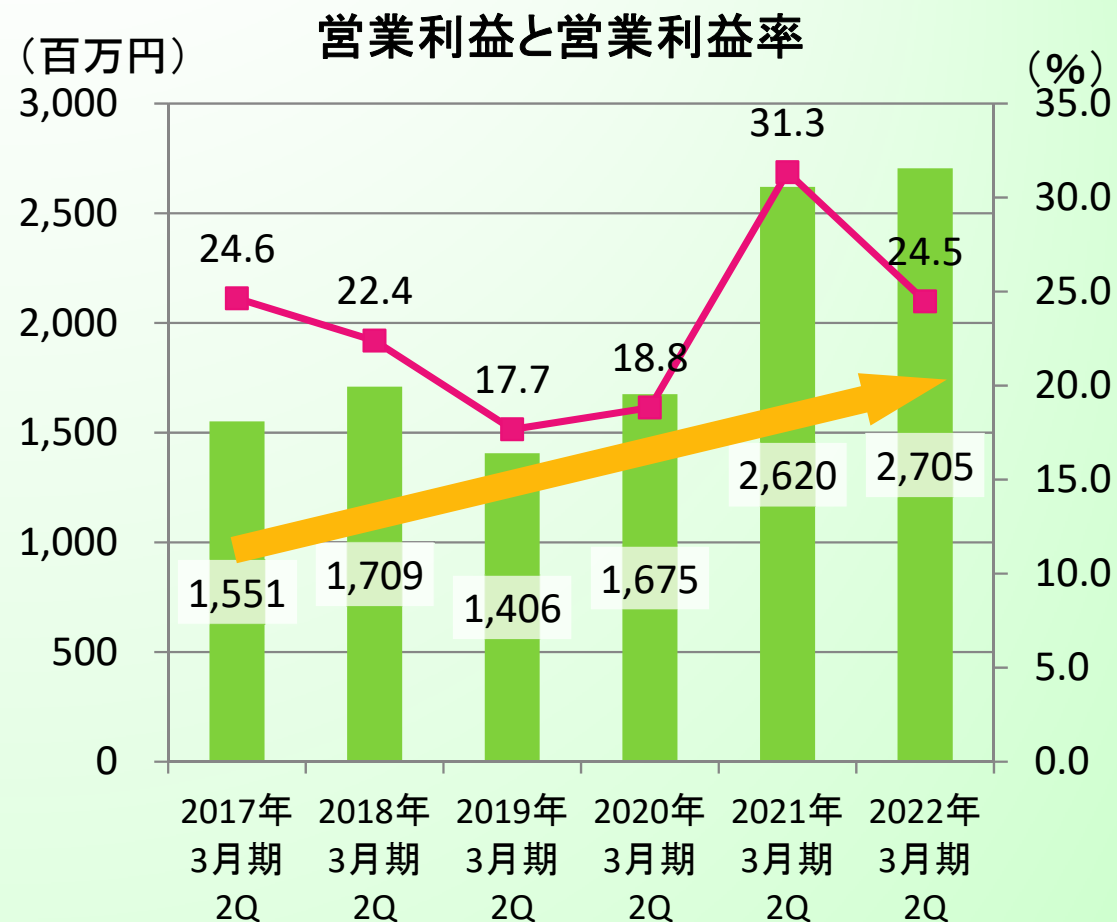
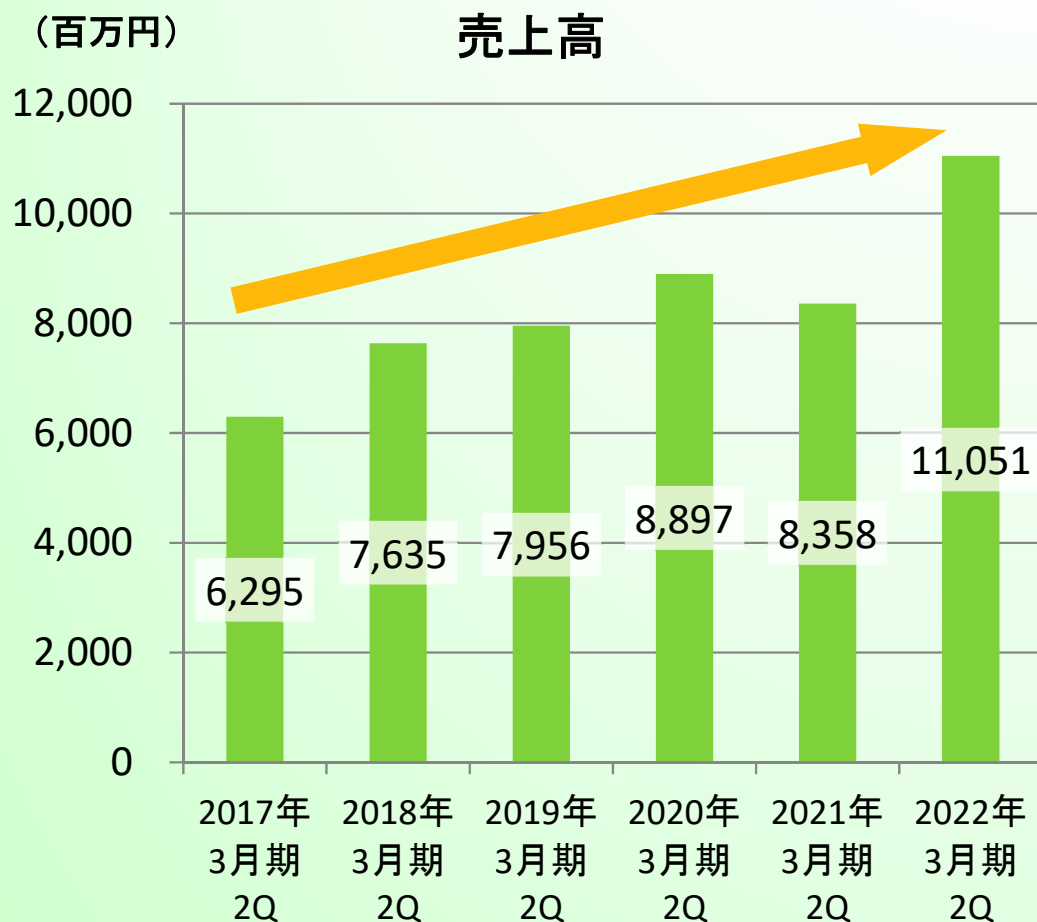
(単位: 百万円、()内は対2021年3月期末増減)

資産の部 81,105 (▲1,627)	流動資産 49,007 (▲3,069)	流動負債 16,000 (▲2,925)	負債の部 17,538 (▲3,183)
		固定負債 1,538 (▲257)	
	固定資産 32,098 (+1,441)	純資産 63,566 (+1,556)	

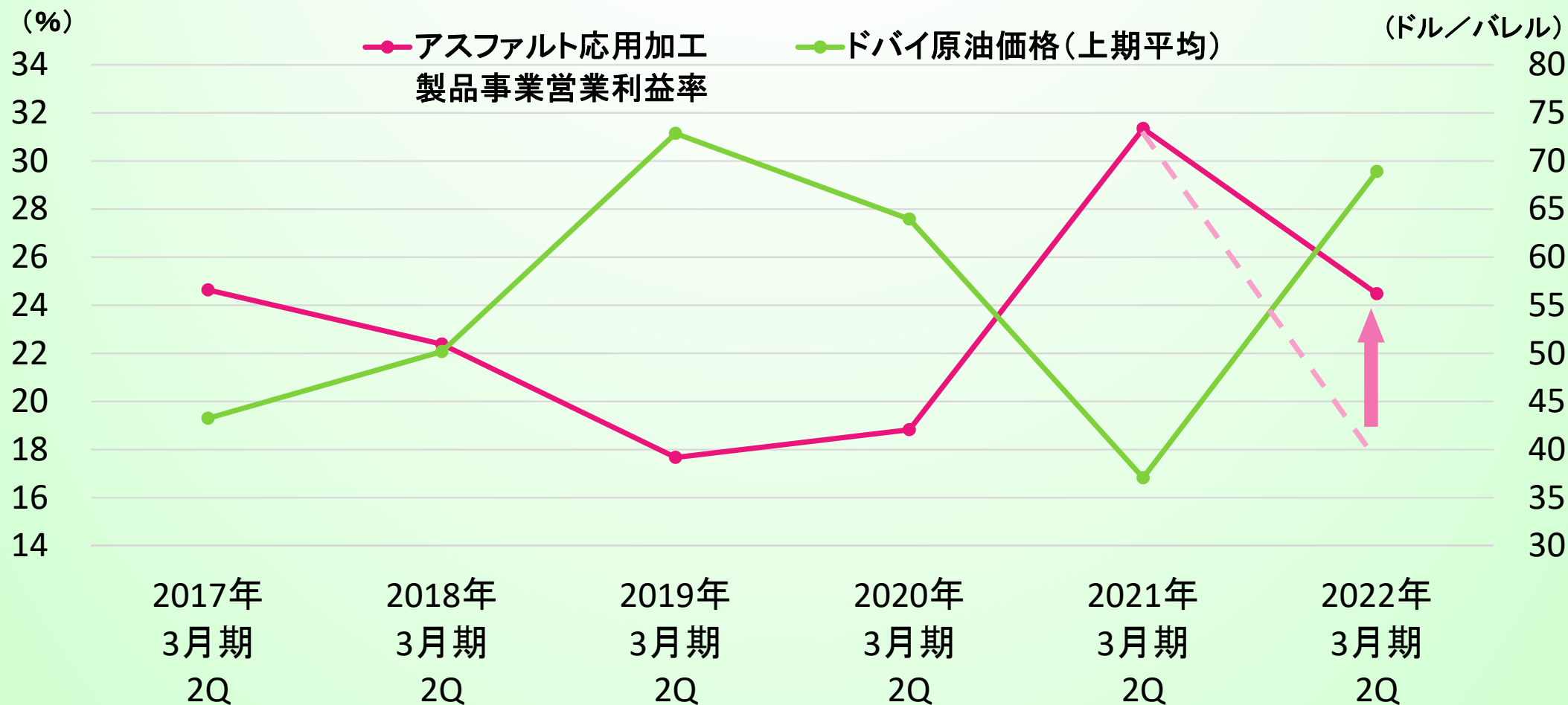
連結キャッシュ・フローの推移



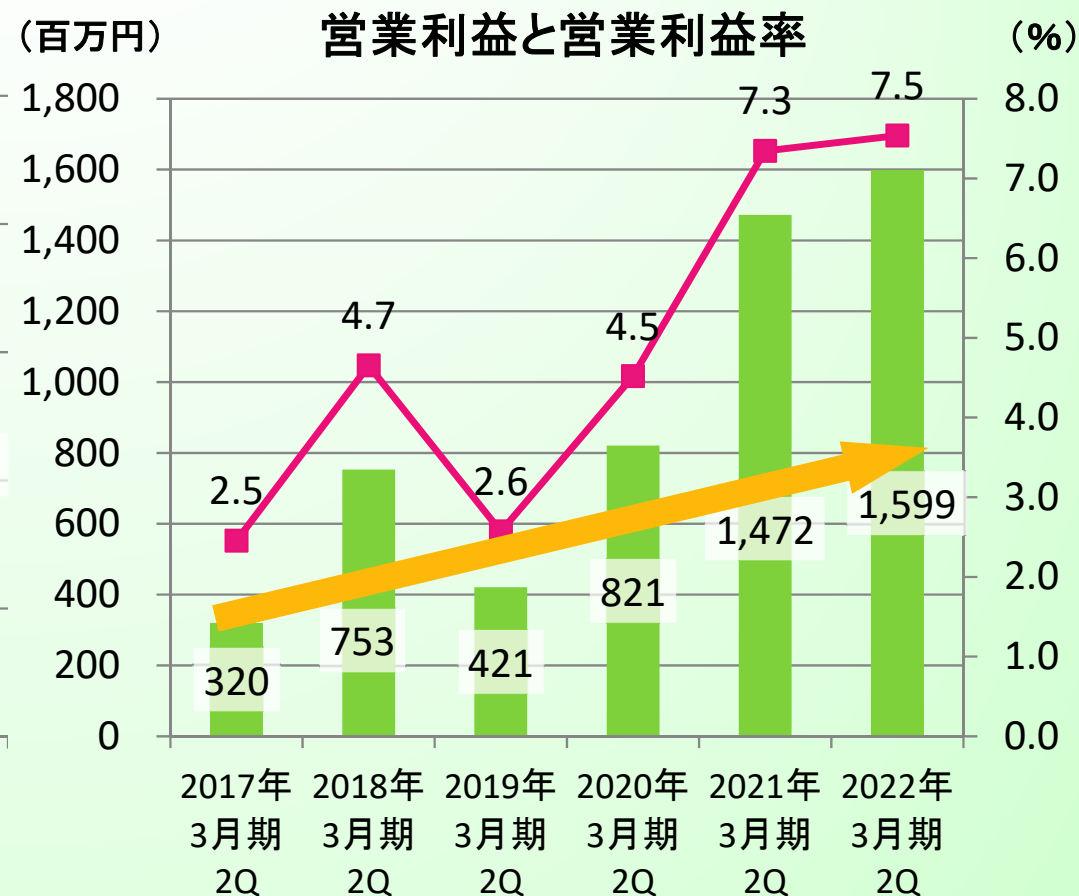
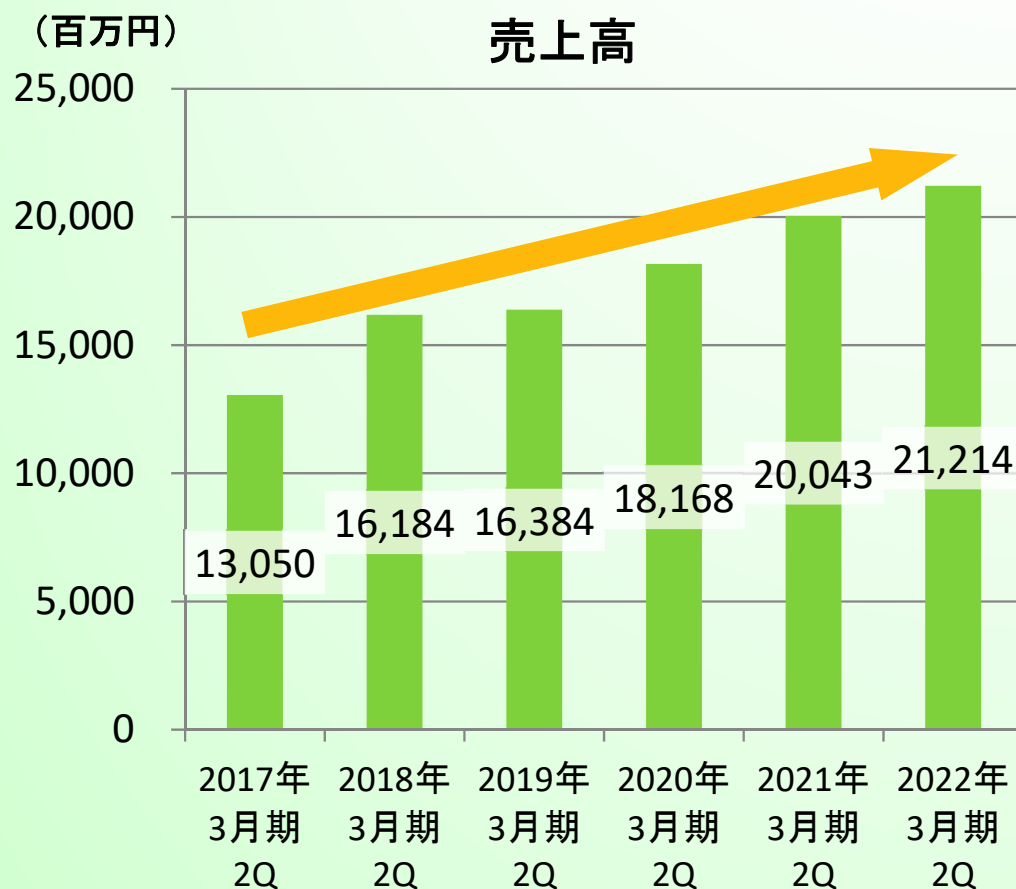
セグメント別業績推移(アスファルト応用加工製品事業)



営業利益率とドバイ原油価格（年度平均）の推移



セグメント別業績推移(道路舗装事業)



トピックス①



- 4月 第10次中期経営計画「しなやか2025」(2021～2025年度)がスタート
➡ ～組織レジリエンスの高い企業へ～
持続可能な企業グループへの成長を目指す
- 5月 第1回新株予約権(2020年12月発行)の行使停止、取得、消却
➡ 「つくばビッグシップ」(環境配慮型の生産・物流基地)の建設並びに、既存拠点の整備・拡充に係る設備資金の調達を目的として、2020年12月1日に新株予約権を発行、27億円の調達を実施。調達資金は、「つくばビッグシップ」建設用地取得に係る借入金の返済および既存拠点の整備・拡充費用に充当。前期業績の予定を上回る好調もあり、残存分となる約3分の1を取得し、消却。

トピックス②

- 6月 新たに、ESG・SDGsの観点に立ったホームページに刷新

トップページ



環境ページ

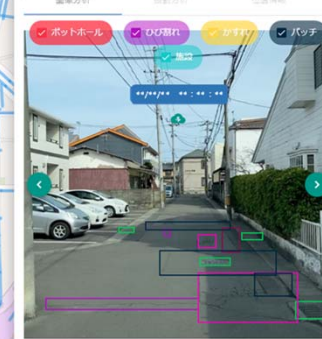


トピックス③

- 7月 スマートフォンでより簡単に道路点検ができる「GLOCAL-EYEZ」の提供を開始



画像データアップロード
AI解析



★2021年9月1日 日経産業新聞に掲載「スマホで道路点検、分析1時間」
https://www.nichireki.co.jp/up_pdf/20210906101525_f.pdf

トピックス④

- 9月 統合レポートを発行 ※英語版は10月発行



https://www.nichireki.co.jp/investors/integrated_report

Ⅲ. 2022年3月期 通期業績予想

通期業績予想の背景



プラス要因

- ◆防災・減災、国土強靱化対策など建設需要の高まり
- ◆環境配慮型製品の販売拡大

マイナス要因

- ◆原材料価格高騰の影響
- ◆企業間の熾烈な受注競争

通期業績予想

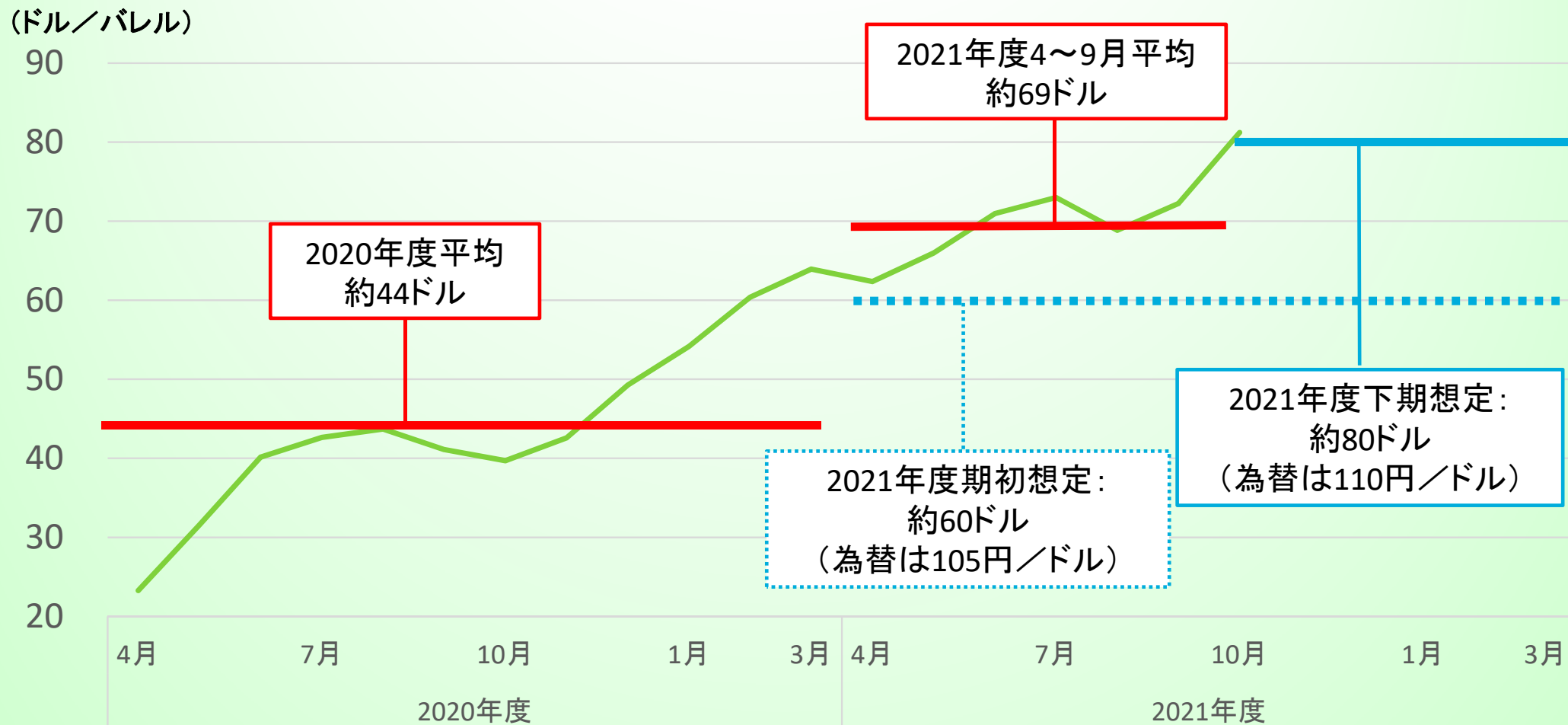


(単位:百万円)

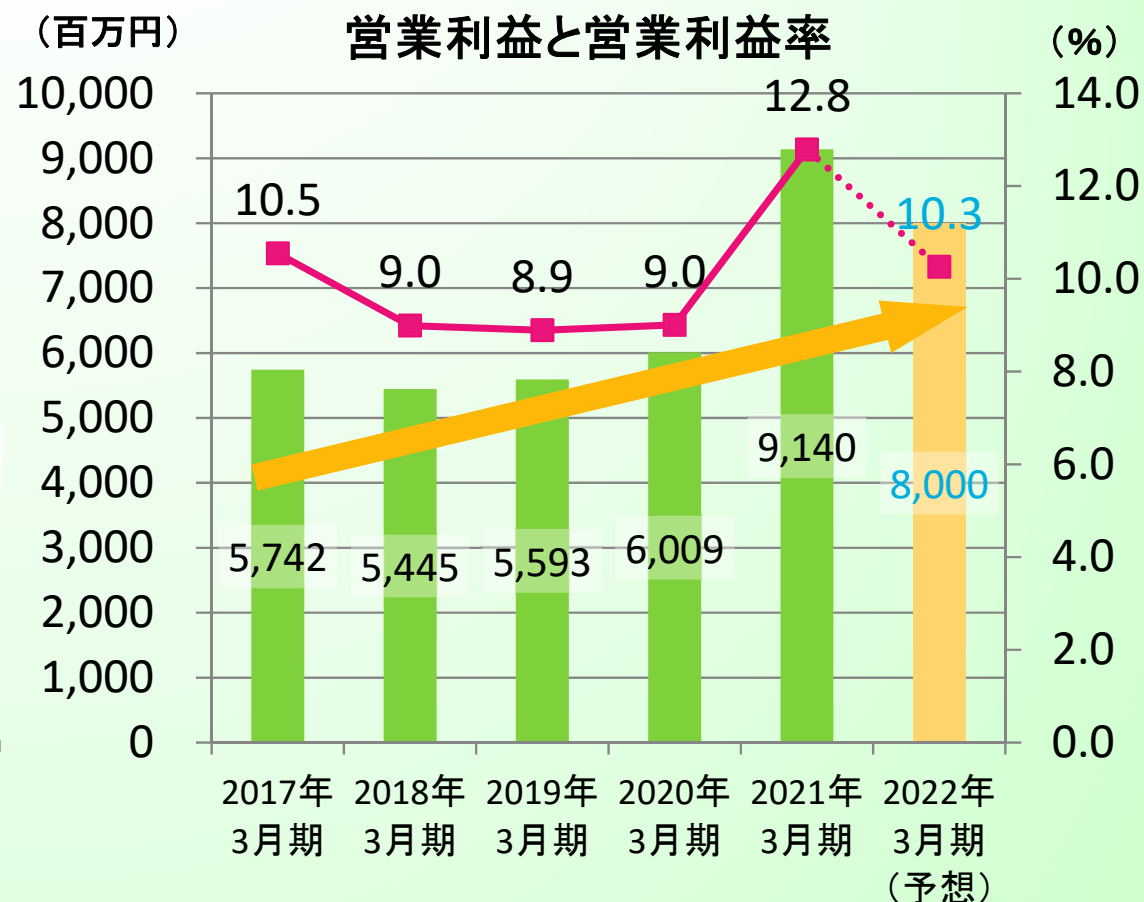
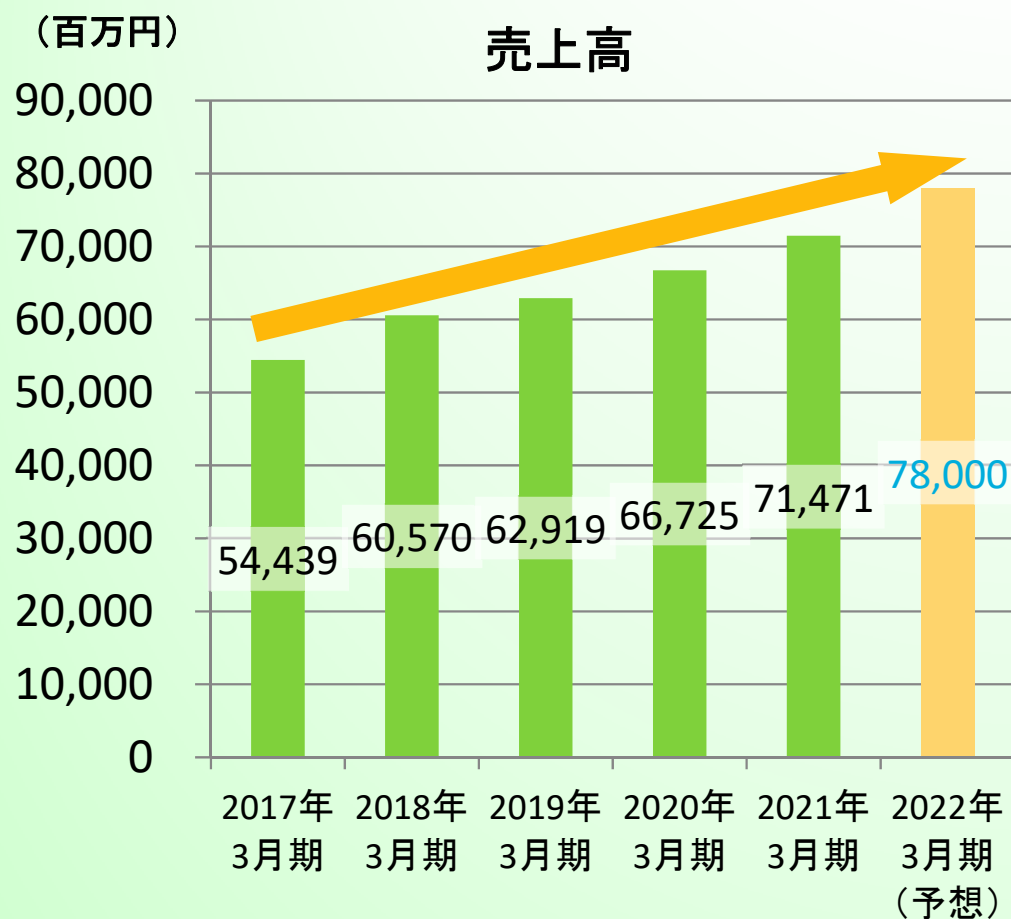
	2021年3月期	2022年3月期 (期初予想)	2022年3月期 (修正予想)	対前期 増減率
売上高	71,471	73,000	78,000	-(※)
営業利益	9,140	7,000	8,000	▲12.5%
経常利益	9,574	7,200	8,200	▲14.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,357	4,400	5,300	▲16.6%

※: 当期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しているため、
上記の業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額であり、売上高の対前期増減率は不記載

参考:ドバイ原油価格の下期想定



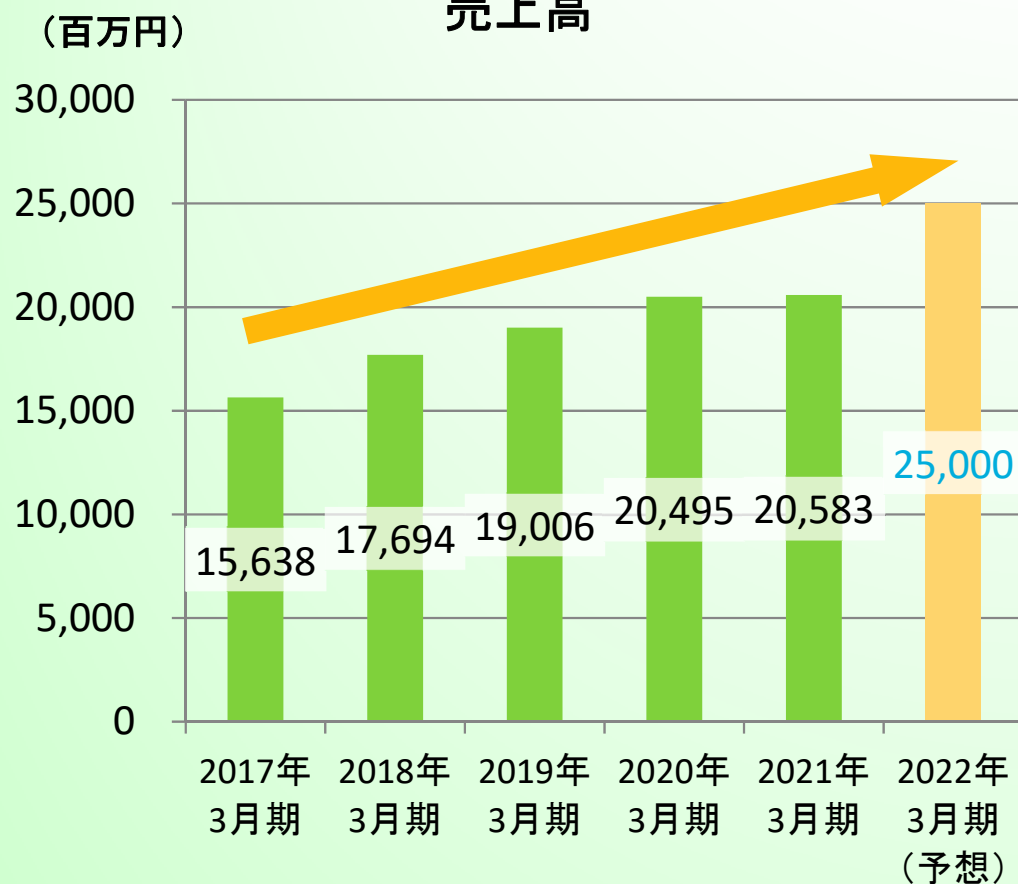
通期業績予想(推移)



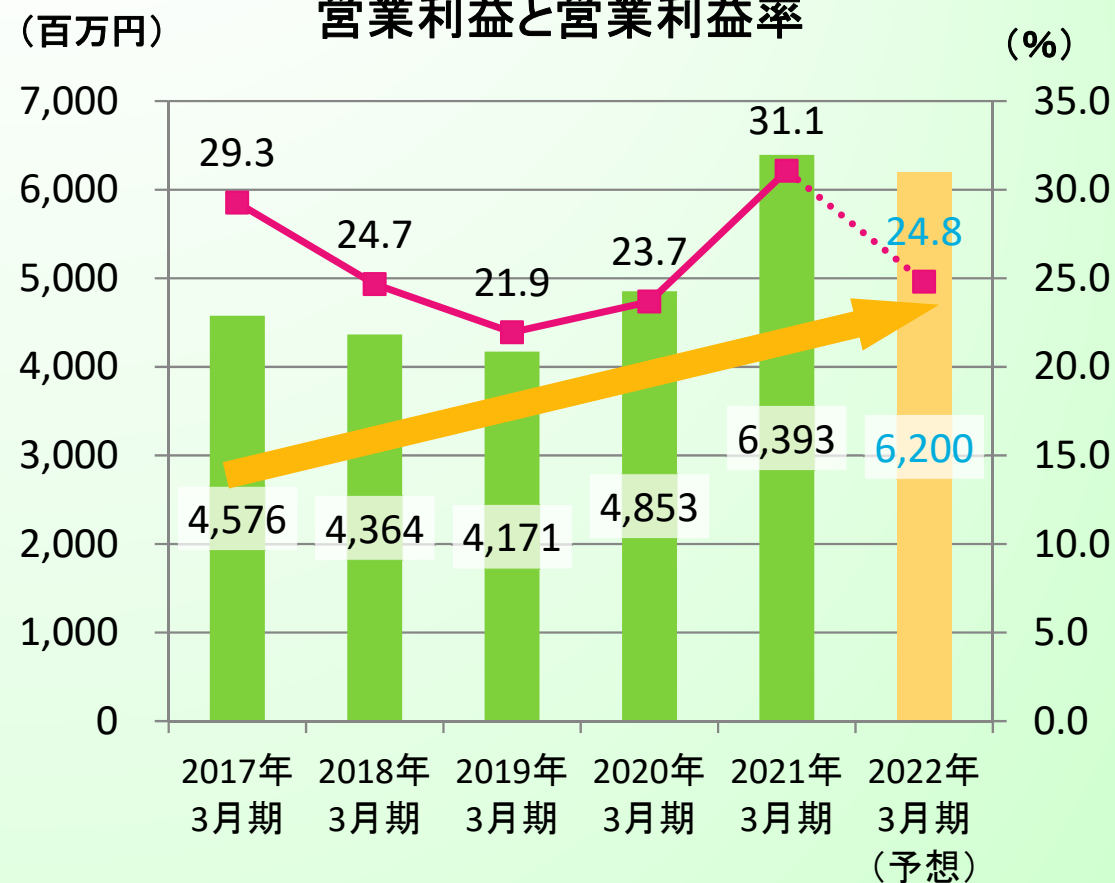
セグメント別業績予想(アスファルト応用加工製品事業)



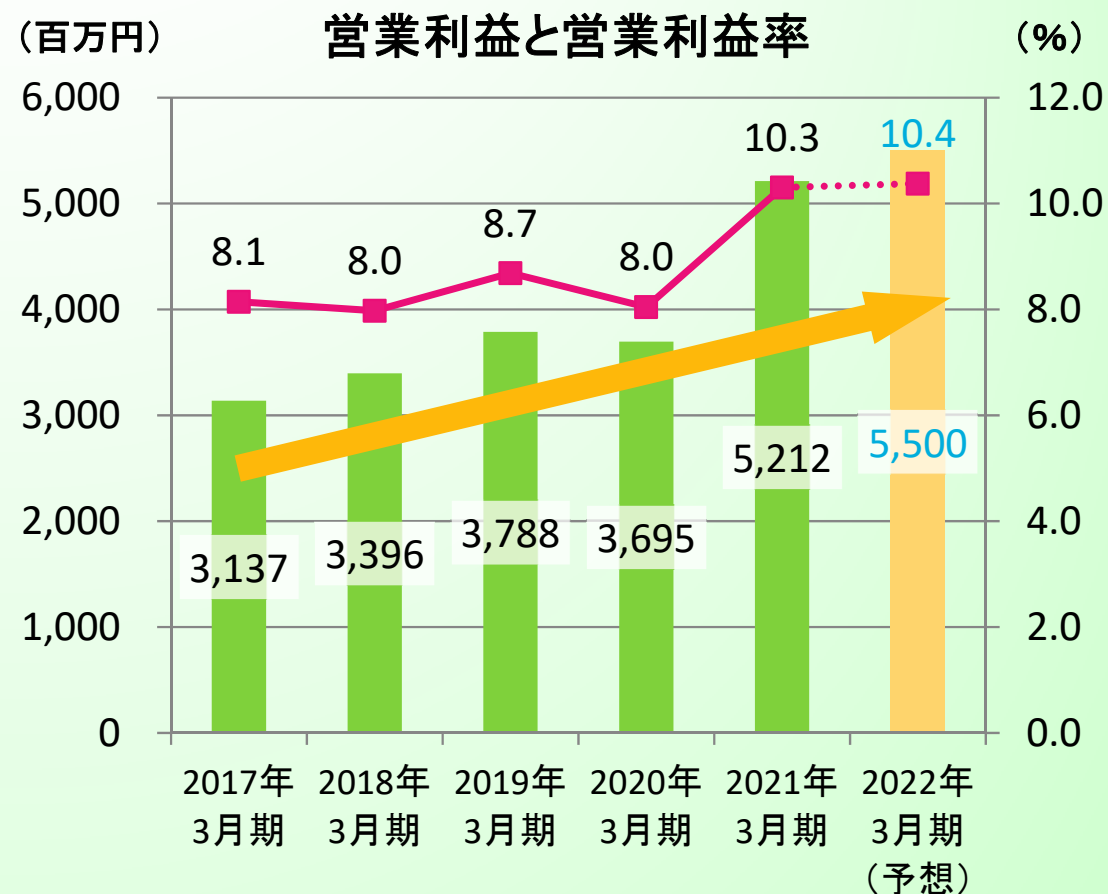
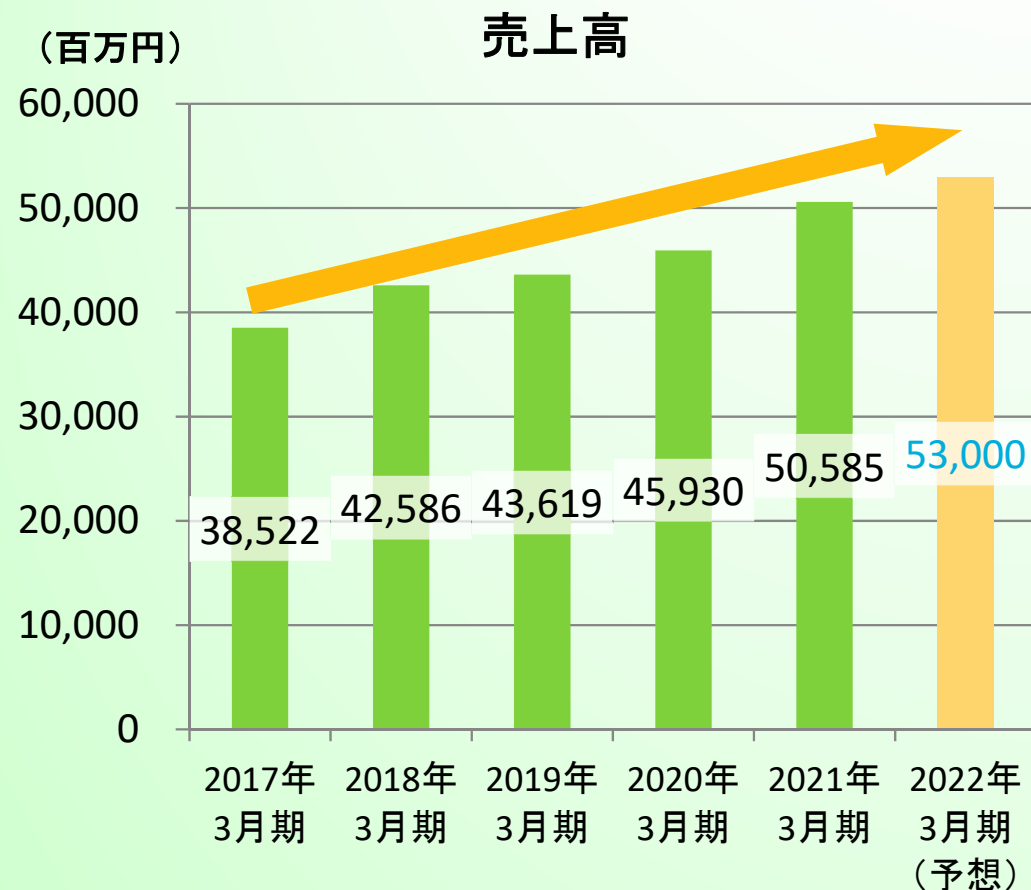
売上高



営業利益と営業利益率

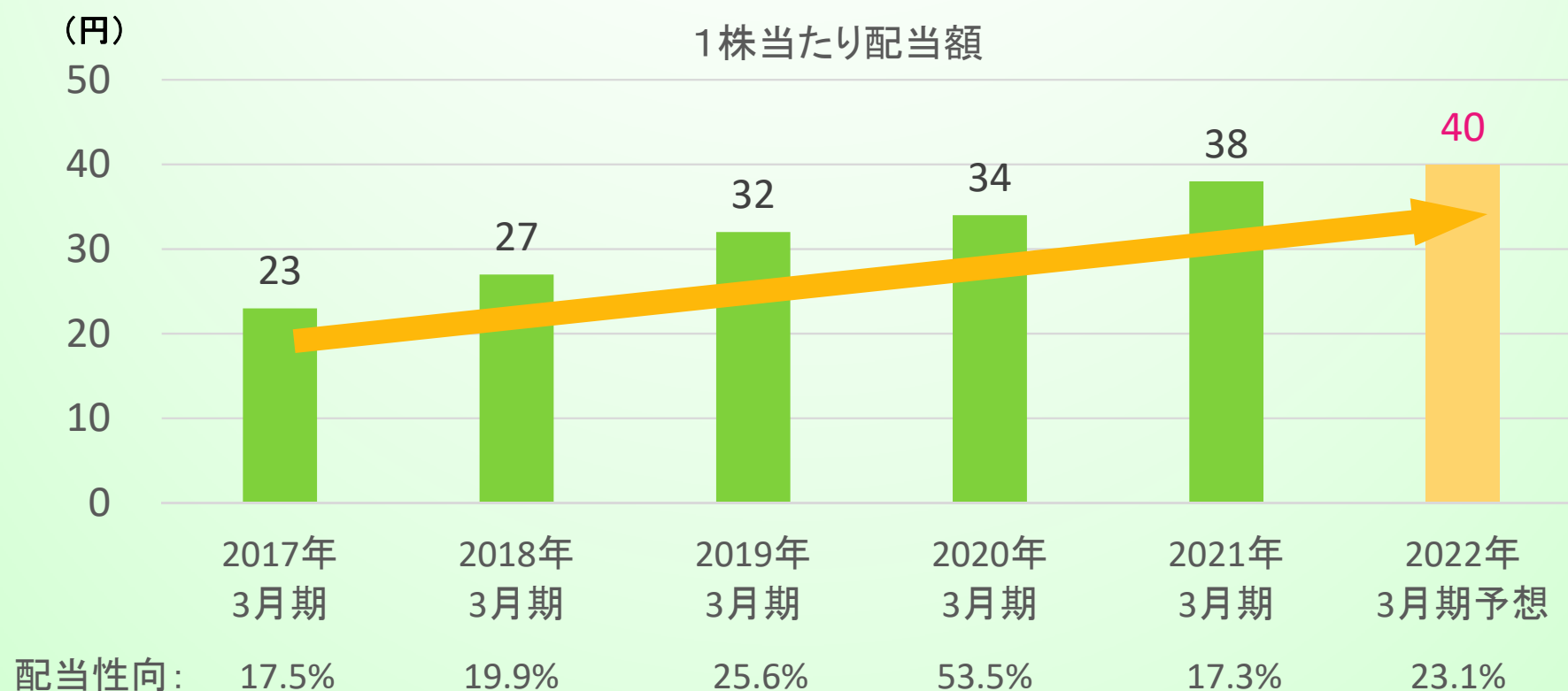


セグメント別業績予想（道路舗装事業）



配当予想

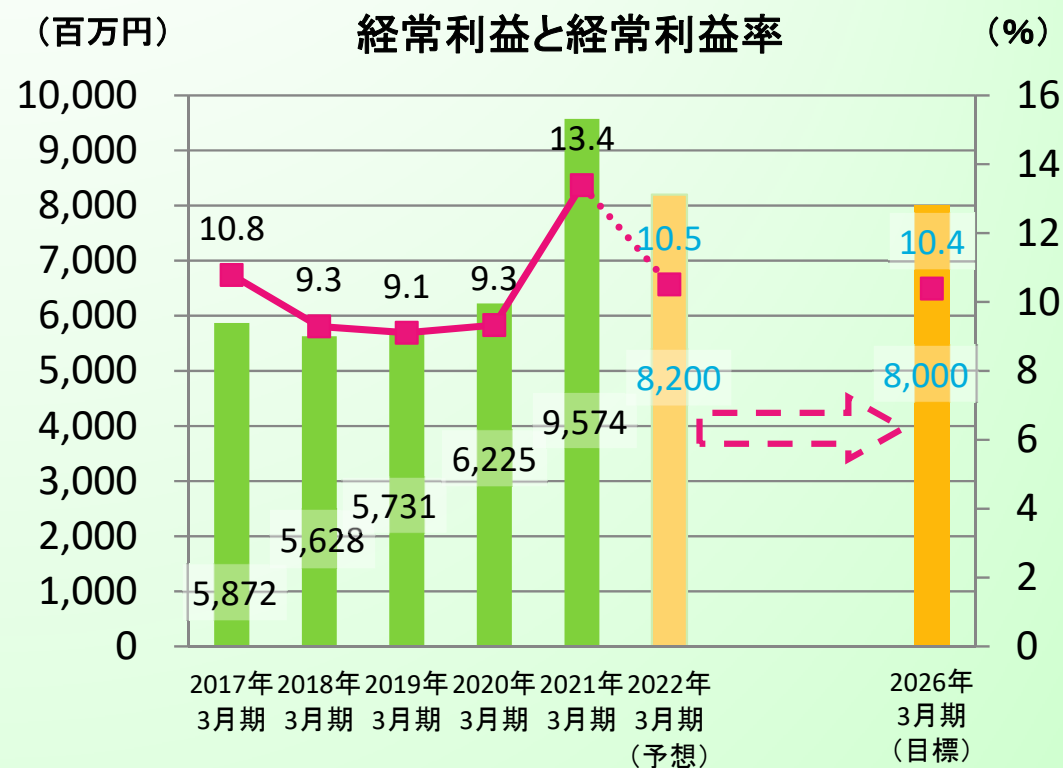
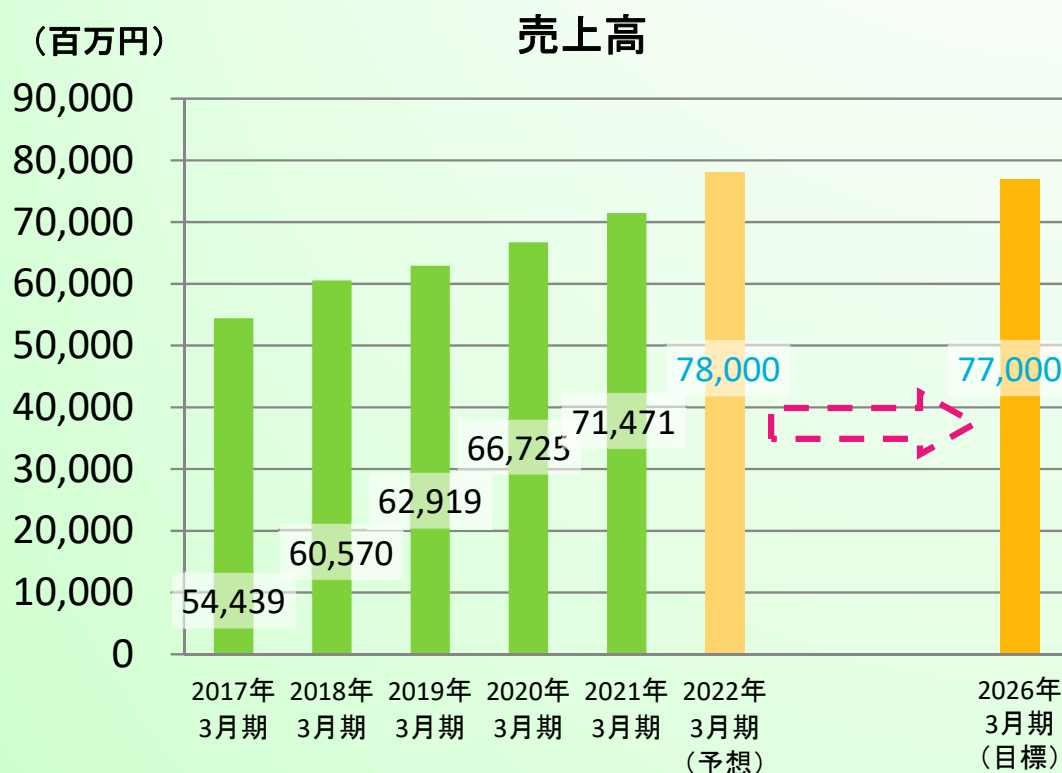
- ◆安定配当を基本とし、業績向上による増配に向けても努力を継続
- ◆業績予想修正に伴い配当予想も修正（期初予想）38.0円→（修正後）40.0円



経営成績目標



「つくばビッグシップ」の開発投資・減価償却、全国各地の既存設備のメンテナンス投資を含めた成長投資を実施しつつ、売上高の成長と利益率の向上を目指す。



参考：第10次中期経営計画

基本方針



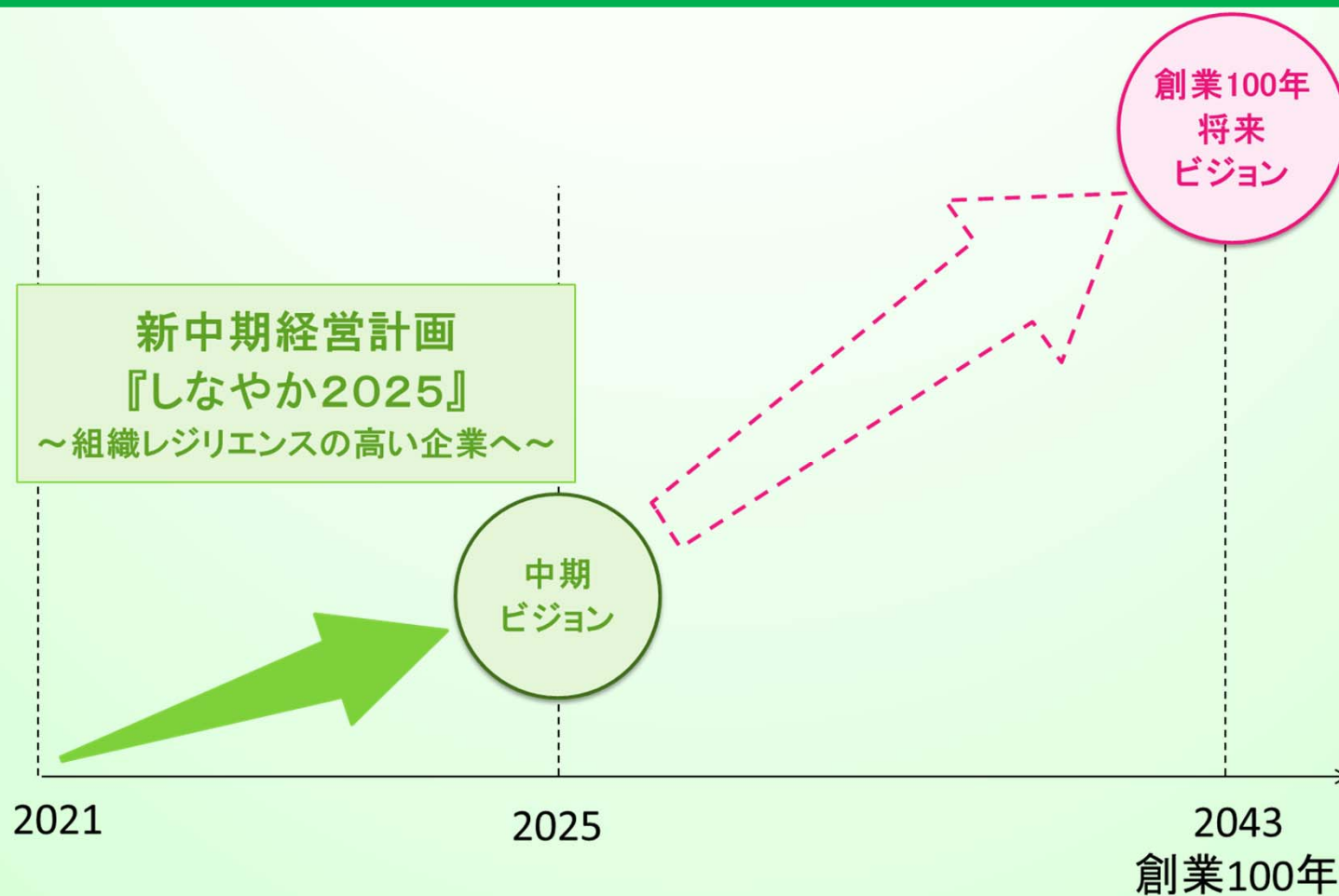
第10次中期経営計画(2021年度～2025年度)

しなやか2025

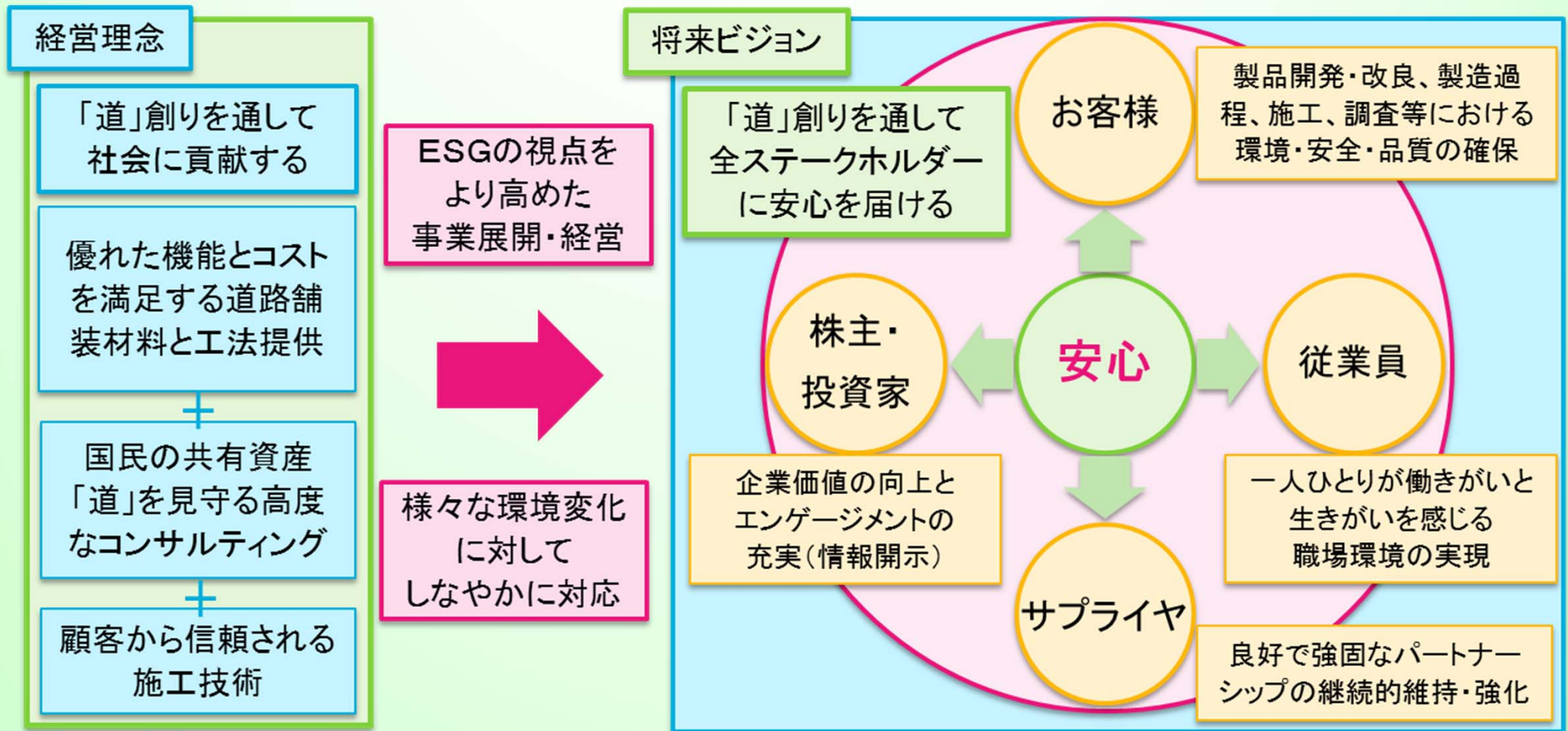
～組織レジリエンスの高い企業へ～

大規模かつ速い速度で進行していくことが想定される様々な環境変化に対して、迅速かつ的確な意思決定のもと、組織が一丸となってしなやかな対応を図り、持続可能な企業グループへと成長する。

本計画の位置付け



創業100年(2043年)将来ビジョン



当社をめぐる経営環境



- ① 公共投資、政府の施策動向（防災・減災、国土強靱化対策等）による影響
- ② 自然災害、感染症等による経済への影響
- ③ 原材料価格の変動および供給動向
- ④ 自動運転社会やDXがもたらす新しい社会への対応
- ⑤ 脱炭素社会など環境変化への対応
- ⑥ 企業の社会的責任（ESG・SDGs等）の増大
- ⑦ 新たな働き方、労働力人口の減少、高齢化等への対応

重点施策

- (1) 市場の拡大と深耕、そして市場への定着
- (2) 研究開発力の強化と生産性の向上
- (3) グループ経営基盤の強化
- (4) 脱炭素社会実現へのESG(環境)投資促進

重点施策(1)

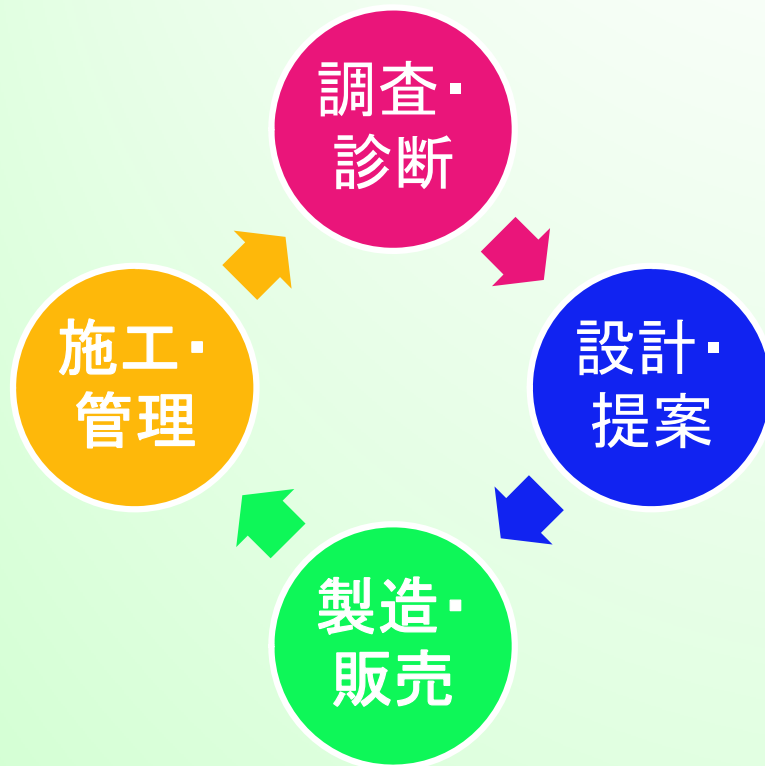
市場の拡大と深耕、そして市場への定着

- ◆ 市場の拡大と深耕の継続による、
自社開発・製造の製品・工法の定着
- ◆ 長寿命、リサイクル、CO₂削減、安全
などの性能・機能を有する環境に
やさしい自社製品・工法の販売推進



ビジネスモデルにおける強み

舗装に関わる一連の流れを高度にシステム化



- ◆ 優れた機能とコストを満足する道路舗装材料と工法提供
- ◆ 国民の共有資産「道」を見守る高度なコンサルティング
- ◆ 顧客から信頼される施工技術

市場の拡大と深耕、そして定着

- ◆ 多様な顧客
国、都道府県、市町村、
高速道路会社、民間、...
- ◆ 潜在的な道路舗装市場
橋梁、空港、港湾、農林、
河川、鉄道、下水道、公園、...
- ◆ 多彩なメニューを提供

拡大

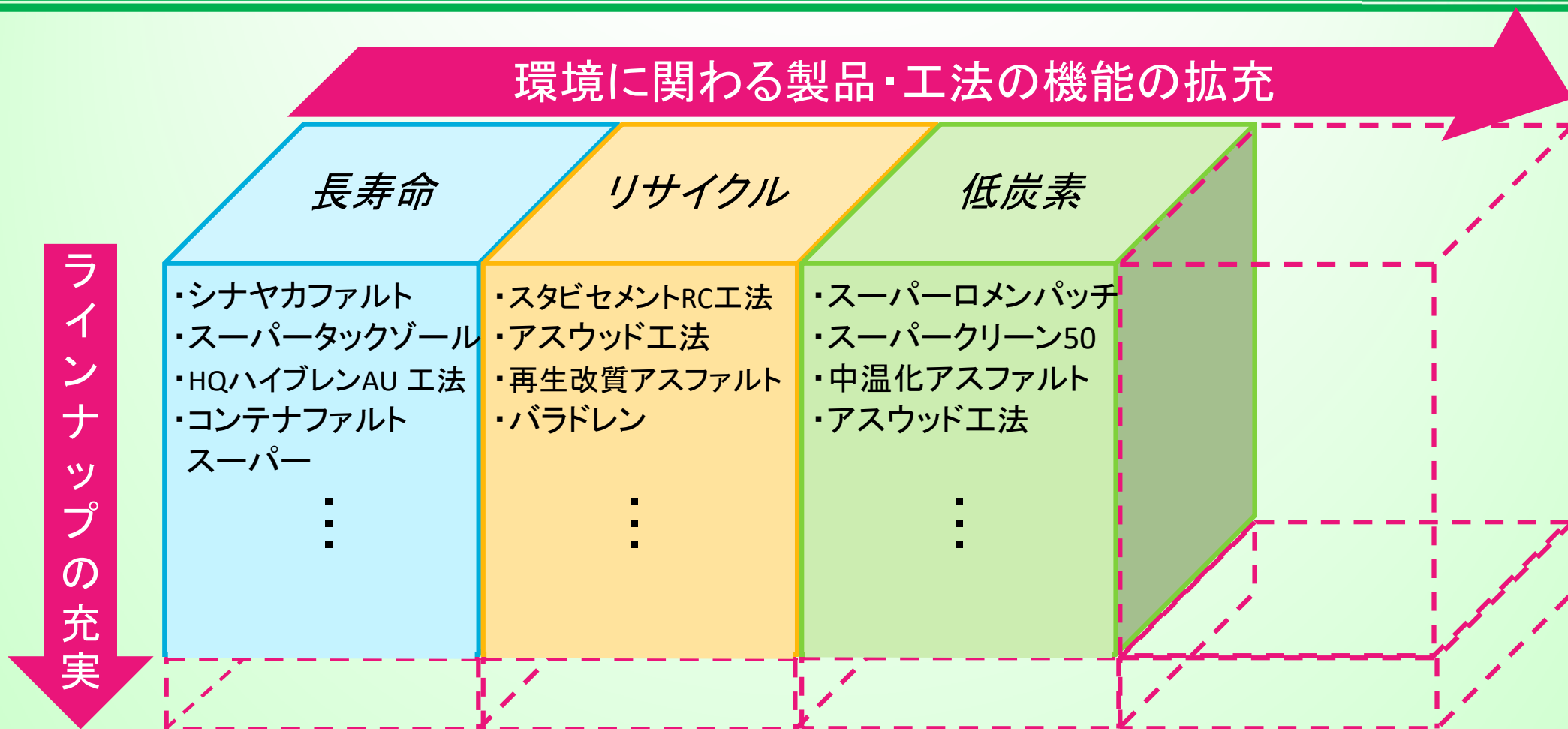
深耕



リピーターを
増やす

定着

高付加価値な製品・工法の提供



環境への取り組み紹介をHPに新設



トップページ



ここから環境ページへ

環境ページ



長寿命化・リサイクル・低炭素
を切り口に、具体的な取り組み
を紹介

※2021年6月下旬公開予定。画像はイメージ

重点施策(2)

研究開発力の強化と生産性の向上

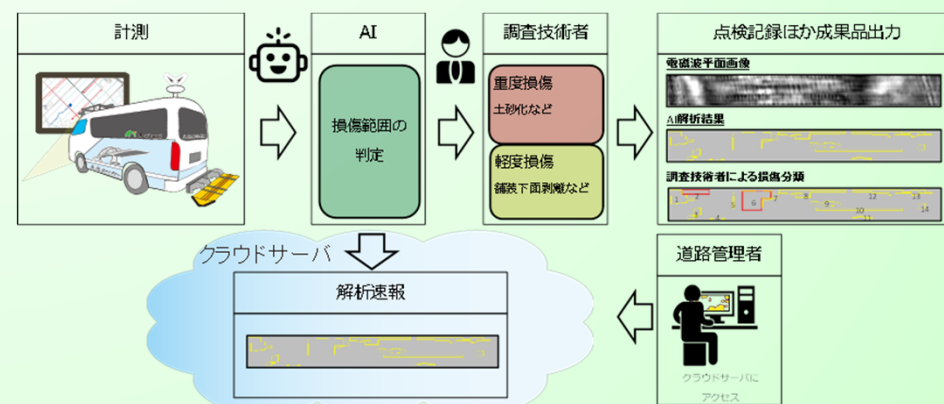
- ◆ 他分野の技術の積極的な取り込みと
自社技術の発展による、革新的な
製品・工法の開発
- ◆ 人やモノの有機的なつながりの強化
と、物流ネットワークの整備構築に
よる生産性の向上



研究開発による技術革新事例①

smart床版キャッチャー

- ◆ 電磁波とAIを組み合わせた技術により、橋梁を破壊せずに鉄筋コンクリート床版上面の損傷箇所を判定
- ◆ データがクラウドに即時アップロードされるため、迅速に判定結果を確認可能
- ◆ 高精度位置情報の採用で作業工数を削減。熟練技術者に頼らずコストダウンを実現

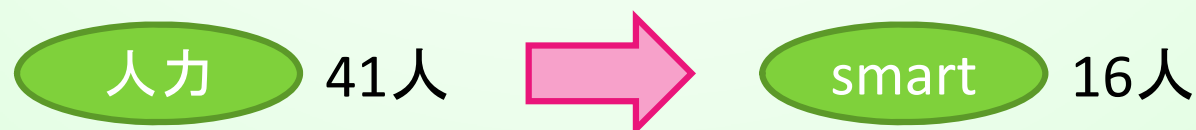


研究開発による技術革新事例②

smart路面点検サービス

◆ 従来人力で行ってきた現地調査、路面状況計測、路面画像解析の各作業を、IoTやAIを活用し大幅に効率化

- 100km程度の路面点検に必要な標準的延べ人数



研究開発による技術革新事例③

シナヤカファルト

- ◆ 革新的な新素材の導入により、手で曲げられるほどの柔軟性と、交通荷重に耐えうる強靱性を兼備した特殊改質アスファルトを開発
- ◆ 従来品に比べ「ひび割れ」や「わだち掘れ」等、舗装の損傷の発生を長期間抑制

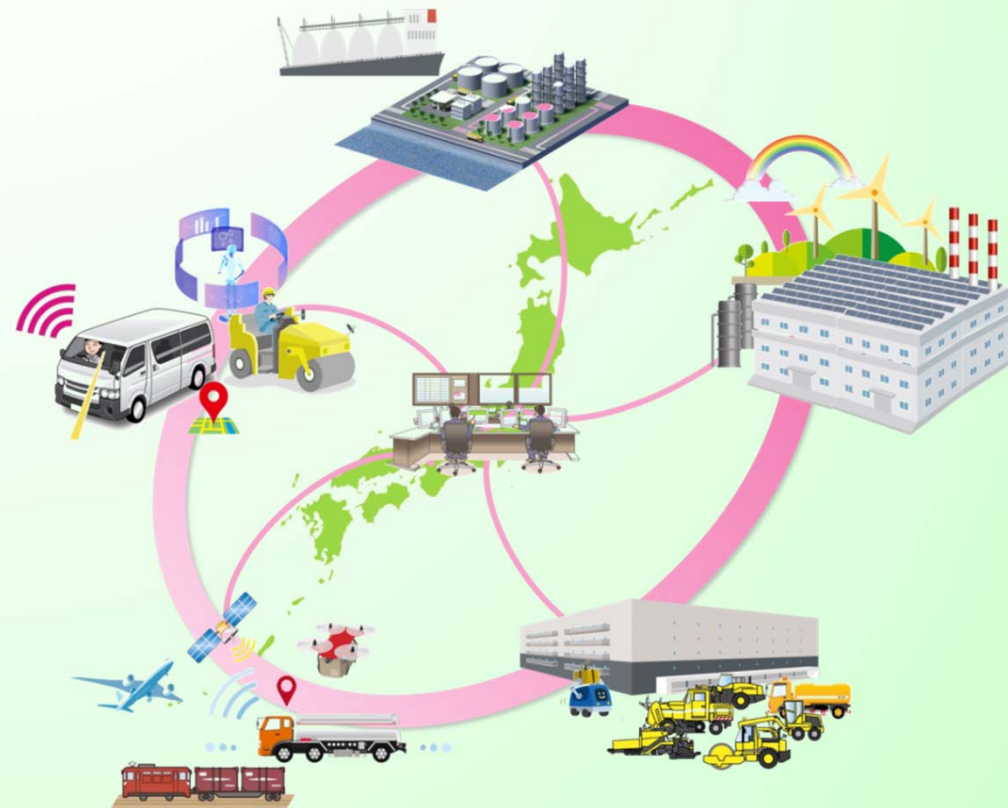


栃木県 国道4号バイパス

ネットワークの構築による生産性向上



- ◆ ビジネスサイクルの効率向上のため、デジタル技術を活用して全国の経営資源を有機的に結びつけ、全体を最適化
- ◆ 地域や部署を超えた柔軟な応援・協力体制の強化



重点施策(3)

グループ経営基盤の強化

- ◆ 企業価値の継続的向上のための、強靱な財務・経営基盤の構築
- ◆ 持続的な成長を支える人材の開発と育成
- ◆ ICTの整備・拡充とDXの推進



財務・経営基盤の強化



プライム市場移行に向けたガバナンス体制の強化

- 社外取締役比率1/3以上をはじめとする、コーポレート・ガバナンス・コードへの適切な対応
- 収益力・資本効率等の改善による業績向上

IR活動の強化

- 決算説明会の開催等、情報発信機会の充実
- 非財務情報（ESG等）を含む積極的な情報開示

人材の開発・育成

新しい人事制度の運用(2022年4月～)

- 65歳定年制の導入
- グループ人材の能力開発と適材適所の人材配置

組織再編による体制の強化

- 4統括エリア体制による経営効率化の推進
- DX、資本効率、物流改革を担う専門部署の新設



ICTの整備・拡充とDXの推進

ICT環境の整備とツールの活用促進

- Web会議や資料のペーパーレス化、テレワークの推進
- モバイル端末の活用に伴う情報セキュリティの強化

DXによる業務改革の推進

- 従来の業務手順・プロセス・人員配置等の抜本的な見直し
- 新たな基幹システムの構築を中心とする業務効率の改善

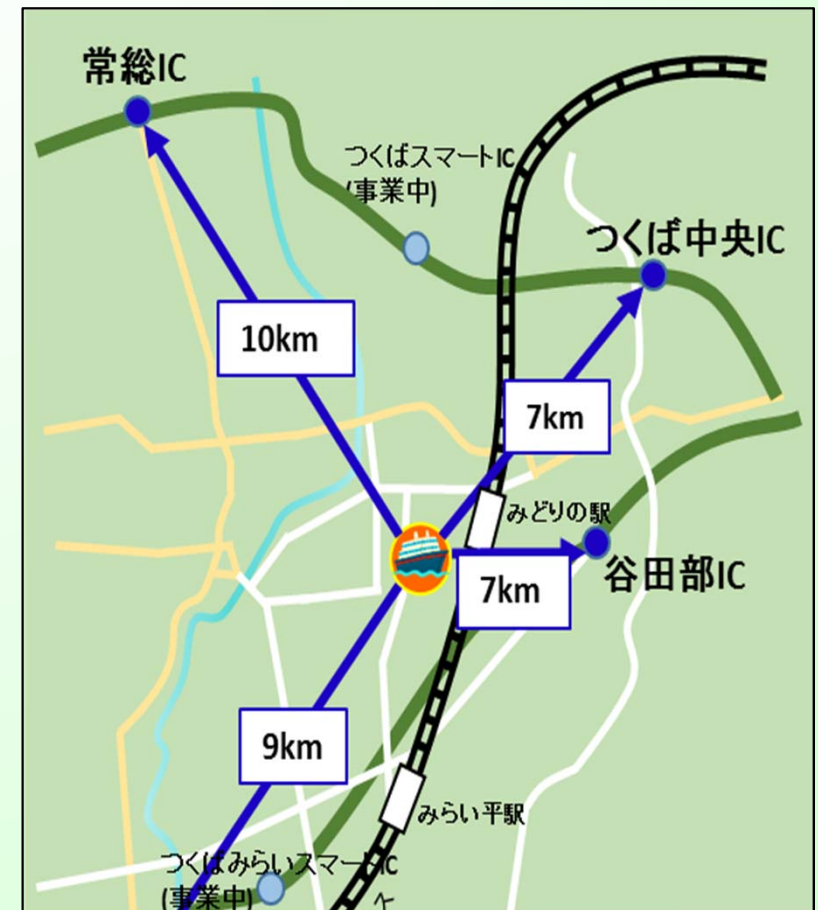
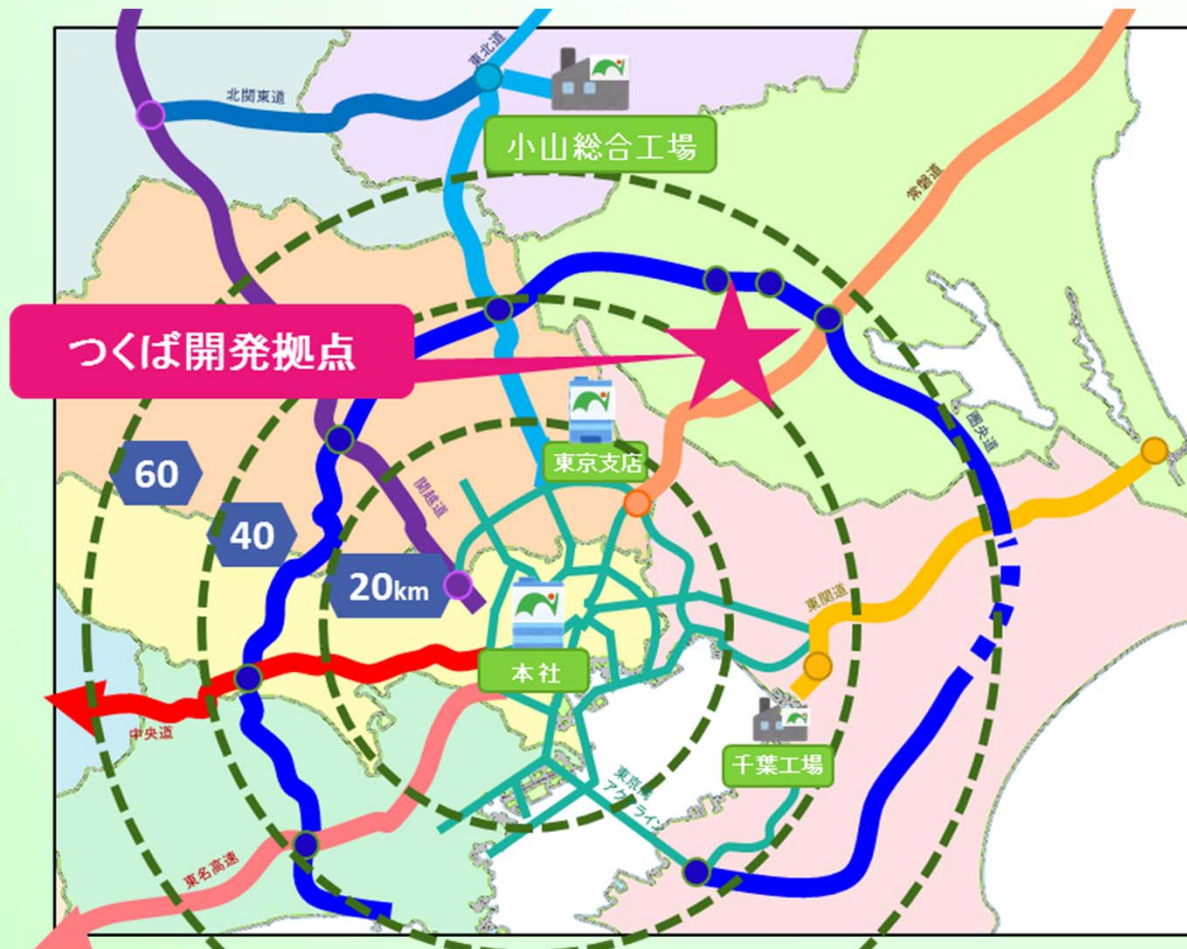
重点施策(4)

脱炭素社会実現へのESG(環境)投資促進

- ◆ 茨城県つくばみらい市に建設する環境配慮型の生産物流基地(つくば開発拠点)における、脱炭素社会移行への取り組み
- ◆ ハイブリッド車への更新や、既存建物・設備の改修によるエネルギー消費量の削減



つくば開発拠点へのアクセス



つくば開発拠点のコンセプト①

創業100年を見据えた新工場の建設

様々な環境変化や将来のニーズに応える新製品の製造に対応可能な、脱炭素等を意識した環境配慮型生産拠点の構築

BCP(事業継続計画)の強化

製品供給の社会的責任を果たす上でのリスク分散の観点から、生産のメイン拠点を2箇所に増強(ダブルコア戦略)

つくば開発拠点のコンセプト②



物流と車両・資機材の中核拠点化

製商品の倉庫群と効率的な全国的配送システムセンターおよび、舗装の調査・施工車両や各種資機材のモータープールの整備

地域活性化に向けた取り組み

周辺の環境や景観に配慮した事業活動の展開と、雇用の創出やCSR活動等を通じた地域の経済・社会発展への貢献

経営成績目標



2025年度目標(連結)

売上高	77,000百万円
営業利益	7,800百万円
経常利益	8,000百万円
ROIC(投下資本利益率)	6.5以上
ROA(総資産当期純利益率)	5.0以上

ESGに関する取り組み(環境)①

環境(Environment)



～ニチレキのビジネスモデルそのものが、ESG(環境)の追求～

◆ 環境配慮型製品・工法の紹介

シナヤカファルト

柔軟性と強靱性を兼備した特殊改質アスファルト。「ひび割れ」、「わだち掘れ」等、舗装損傷の発生を長期間抑制。



長寿命

スーパータックゾール

従来品より養生時間を大幅に短縮した乳剤。舗装と下層の接着強度が高く、舗装の長寿命化に寄与。



ESGに関する取り組み(環境)②

リサイクル

スタビセメントRC工法

古くなった舗装の大部分をそのまま現場で再利用。省エネルギー・省資源でCO2排出の抑制にも貢献。



アスウッド工法

透水性や衝撃吸収性を有するウッドチップ舗装。間伐材や建築廃材が使用でき、人にも環境にも優しい舗装。



低炭素

スーパークリーン50

混合物の製造・施工時の温度を通常から50℃低減できる改質アスファルト。CO2排出を大幅に抑制。



スーパーロメンパッチ

段差等、小規模な舗装補修に使用。機材の使用や交通規制による渋滞が最小限で済み、CO2排出を抑制。



ESGに関する取り組み(社会)①



社会(Social)



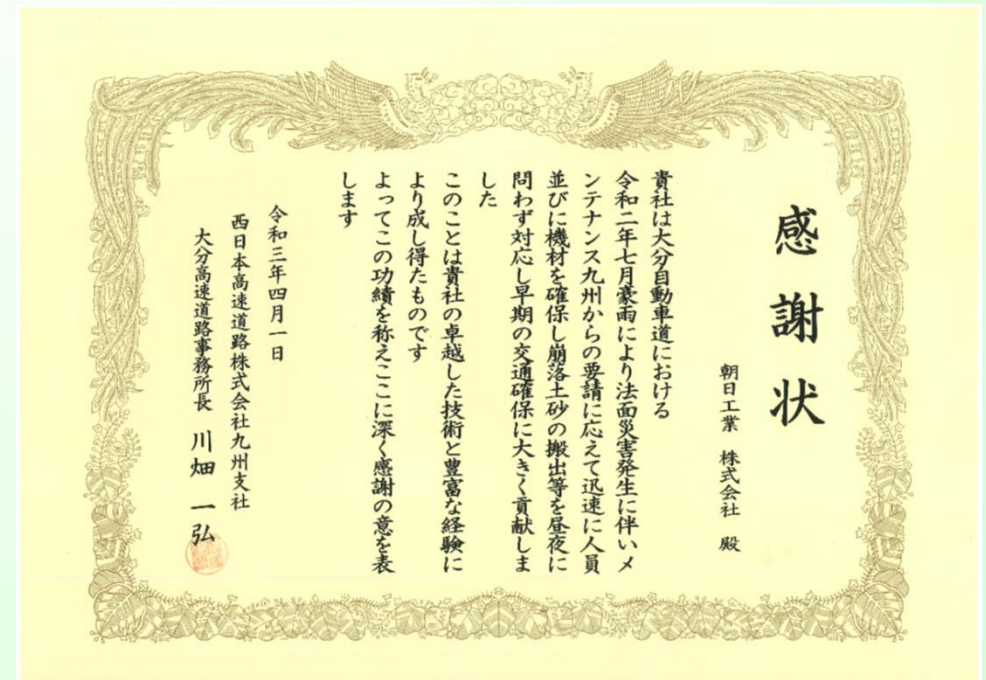
- ◆ 災害時における復旧支援等、グループ会社による地域・地元貢献
- ◆ 研究開発・営業・調査部門における女性および外国人の積極的な採用
- ◆ ICTやDXによる業務効率改善を通じた、働き方改革の推進
- ◆ 職場環境改善のための拠点リニューアル投資
- ◆ 安全組織体制の強化と教育の徹底、事故撲滅に向けた各種施策
- ◆ 外部パートナーとの共同研究開発の推進、戦略的な特許の申請・維持

ESGに関する取り組み(社会)②

地域清掃活動の様子



台風時の災害復旧活動に対する感謝状



ESGに関する取り組み(ガバナンス)



ガバナンス(Governance)



- ◆ 法務・コンプライアンス部門の組織体制の強化
- ◆ 女性役員比率の向上
 - 社外取締役・・・4名中2名、社外監査役・・・2名中1名
 - グループ会社役員への女性登用
- ◆ 広報担当部門の強化による、対外情報発信機能の充実

ESG指標目標



項 目	2020年度 実績	2025年度 目標	2043年度 目標	対象ステーク ホルダー	SDGs マッピング
環境配慮型製品・ 工法の売上比率	12.6%	30%以上	80%以上	顧客	  
新製品・工法開発 (改良含む)上市件数	2016～2020年度 10件	10件以上	40件以上		
年間残業時間	【グループ全体】 640時間以下: 77.8%	640時間以下	360時間以下	従業員	 
有給休暇 年間取得日数	【グループ全体】 付与日数の5割 以上取得: 52.4%	付与日数の 5割以上	付与日数の 9割以上		
共同研究開発 上市件数	2016～2020年度 2件	2件以上	10件以上	サプライヤ	 
経常利益率	13.4%	10%以上	10%以上	株主・投資家	
配当性向	17.3%	25%程度	30%程度		

◆ ご注意事項

本資料に含まれる業績予想等の将来予測に関する記述は、資料作成時点における入手可能情報および、当社の判断・仮定に基づくものです。今後の経済状況および事業環境の変化等により、実際の業績は現時点の予測から乖離する可能性があります。

◆ お問い合わせ先

ニチレキ株式会社 広報室 IR担当

TEL: 03-3265-1513 (8:30～17:30、土日・祝日を除く)

HP : <https://www.nichireki.co.jp/inquiry/>